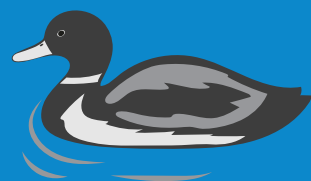
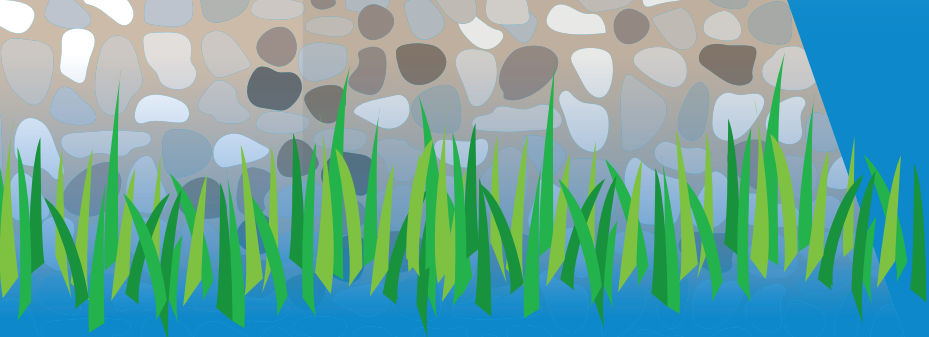




名城公園探鳥会 300回の記録



はじめに

名城公園探鳥会 300 回を迎えて

日本野鳥の会愛知県支部 支部長 新實 豊

1981年1月から始まった名城公園探鳥会が2018年12月で300回を迎え、翌年の2019年5月まで305回の記録を元に本誌を刊行することができました。300回も続けられたのは歴代の案内人の皆様の尽力の賜物とそれを慕って参加して下さる方々がいるからこそその事です。歴代の案内人の皆様と支えて下さった参加者の皆様に御礼申し上げます。

探鳥会の記念誌を発刊するにあたって一番苦勞するのは観察記録をまとめ、データ化する事です。どんな鳥が見られたのか、増えているのか、減っているのか等は探鳥会の記念誌には欠かせない内容です。そのためには観察記録を整理してパソコンで扱えるデータにしなければなりません。特に古い記録ほどデータ化するのに手間暇がかかるものですが幸いにも名城公園の記録に関しては佐藤文昶さんの先見の明で初回からの記録をデータとして蓄積して下さっていました。そのため短期間で刊行する事ができました（詳しくは本誌をお読みください）。佐藤さんにはとても感謝致します。

私と名城公園探鳥会との関わりですが、私の一番古いフィールドノートの1ページ目に1994年4月3日名城公園と記されています。おそらくこれが初めて参加した探鳥会であったと思います。日本野鳥の会に入会したのが前年の6月ですから10か月後の事です。探鳥会は初めて参加するには敷居が高いと言われますが私もそうでした。初参加まで10か月かかりました。当時の案内人は右高さん、佐藤さん、久田さんでどの方も温和で優しく初めて参加した者の緊張を和らげて下さり安堵した覚えがあります。その安心感から足繁く通うきっかけとなりました。

当日の観察記録は31種と記載されていますが、自身で見たのはせいぜい10種ぐらいだったと思います。また、1996年2月の記録にはマミチャジナイ初観察と記してあり、305回中2度しか記録のない鳥を見られたのはとても幸運でした、今でもどの木に止まっていたか覚えています。

名城公園は市街地にある公園で一見すると環境の変化を感じにくいのですが野鳥目線で見ると変化している様子がわかります。本誌ではそれをヒートマップという色の濃淡で視覚的に増減がわかるように作られています。この図表から名城公園の環境の変化を感じとってもらえたらと思います。

近年は公園をより多くの人に利用してもらうためとして商業施設が出来、体育館を建てる計画もあります。また、お堀の石垣工事のためか水位が随分下がっています。探鳥会は調査ではありませんが、長く続けその記録を残していくことで環境の変化を知る指標となります。これからもこの探鳥会が末永く続いていくことを願っています。

<謝辞>

本誌の編集委員として携わって下さった現案内人の右高幸男さん、秋山幸之朗さん、大崎敏広さん、元案内人の佐藤文昶さん、DTP編集を一手に引き受けて下さった田口奈緒子さんに心より御礼申し上げます。

目次

名城公園および名城公園探鳥会について（佐藤 文昶）	1
名城公園で見られる鳥 山野編（大崎 敏広）	5
名城公園探鳥会 案内図（大崎 敏広）	6
名城公園で見られる鳥 水辺編（大崎 敏広）	8
観察記録の解析（秋山 幸之朗）	9
名城公園の珍鳥たち（右高 幸男）	42
あとがき ～名城公園探鳥会が永遠に続くことを願って～	45

名城公園および名城公園探鳥会について

1 名城公園（北園）と名城公園探鳥会の歴史

広義の「名城公園」は名古屋城も含むものであるが、我々が探鳥会の探鳥ルートを設定しているのは、内堀の外、北園と呼ばれているところです。以下、この北園部分と探鳥会についての歴史を年表にまとめてみました。



江戸時代：名古屋城築城時、地形的には熱田台地の北のはずれで濃尾平野のほぼ中心であり、戦国の世の東西南北を睥睨するには格好の地であった。また、台地直下にあたる北園辺りは湿地であり天然の外敵に対する要塞になると考えられたようである。築城されてから城下東側から徐々に武家屋敷が作られていった。

明治時代～1945年終戦：明治中頃から旧陸軍の施設が名古屋城内に置かれ、北園の辺りは練兵場が作られ、これは終戦まで続いた。太平洋戦争が始まるまでの古地図には「練兵場」の文字が書いてあるが、戦争が激しくなるにつれて、機密事項とされたのか練兵場の文字は消え「空白」となっている。

1947年(昭和22年) 都市計画公園・第13号名城公園として都市計画決定される。

1949年(昭和24年) 北園の敷地造成着手。その後の主な工事は、昭和33年 御深井池工事始まる、昭和34年 運動広場（その後野球場）完成、昭和50年 野外ステージ完成、昭和52年 花の道完成・名城自転車天国オープン、昭和56年 せせらぎ完成など順次整備されていった。



1955年(昭和30年)代から植栽が実施され、現在は成木になり繁茂している。北部は、クスノキ、カシ、ツバキなど常緑樹を主体に落葉樹を加えた混合林。南部は、アベマキ、ケヤキ、イチョウ、ナンキンハゼ、トウカエデなど落葉樹を主体に常緑樹を加えた混合林となっている。また、全域に植えられたサクラ、御深井池周辺のツツジ、堀端を巡るフジの回廊など市民の花見の名所にもなっている。



1971年(昭和46年) 地下鉄名城線が大曾根まで延長、名城公園駅設置

1981年(昭和56年) 1月 **名城公園探鳥会**始まる。

1987年(昭和62年) 11月 **名城公園探鳥会 50回**を迎える。

1988年(昭和63年) 名城公園を主会場に第6回全国都市緑化なごやフェア開催、記念施設として「名城フラワープラザ」が建設された。また、城内と北園を結ぶ浮橋がお堀に作られたりしたが、会期が9月30日から11月23日で、冬鳥が本格的に飛来する時期にはかからなかったため、鳥への影響はあまり無かったようである。探鳥会も予定どおり実施している。

1989年(平成元年) 7月15日から11月26日 世界デザイン博開催、名古屋城も会場となるが城内が主であった。

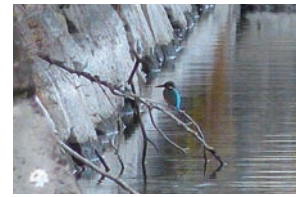
2018年(平成30年) 12月**名城公園探鳥会 300回**を迎える。300回の大きな節目を記念して蓄積したデータを基に記念誌の発行準備を始める。

至近時点 本丸御殿復元に続き、名古屋城天守閣木造復元計画、愛知県体育館移転新設計画が持ち上がり、去就が注目される。



2 名城公園探鳥会の始まり——支部で2番目の定例探鳥会

愛知県支部（当時は名古屋支部）で定例の探鳥会が始まったのは、東山植物園を会場に1974年2月からでした。当初は有志による私設探鳥会でしたが、同年4月から支部最初の公式探鳥会となりました。数年を経て会員の増加とともに東山植物園探鳥会への参加者が多くなり、新たな探鳥会を設けることが模索され、2つ目の定例探鳥会として始まったのが、名城公園探鳥会です。



しかし、名城公園探鳥会もいきなり始まったのではなく、初期の案内人により1年ほどの予備調査が行われ、かなりの鳥を見ることが出来ること、また探鳥コースの検討等もなされ、1981年（昭和56年）1月4日から支部2番目の公式探鳥会として開始されました。名城公園が新しい探鳥会の場所として適当であることを見定め、準備に当たっていた初期の案内人の皆さんには敬意を表するものです。特に鈴木謙さんは早朝の通勤時に途中下車して調査をし、開催適否を判断するのに貢献していただいたと伝え聞いております。

3 名城公園探鳥会開催日の変遷—初めは試行錯誤

名城公園探鳥会は始まりましたが、開催日については現在のように10月から翌年5月までとしてスタートしたのではなく数年の間は始まりの月と終わりの月の開催日は不定期な時期がありました。当時はいつ開催すると沢山の鳥を見ることが出来るかを優先し、その年の気候・他の渡りの地点の情報などを基に案内人が試行錯誤したことのあらわれだと思われまます。

しかし、支部主催で開催される探鳥会が増え、予定表を作るにあたり開催日を一定にしないと運営がしにくいのではないかとということで、1987年に現在の10月から翌年5月の第1日曜日に固定しました。ただし、この日が、正月三ヶ日に入るとは第2週としています。

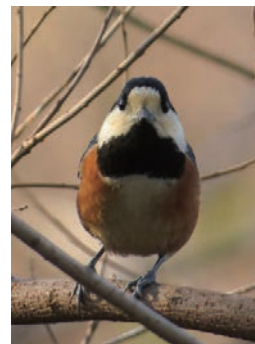
したがって、本編の観察記録の作成にあたっては各月のデータが不足または重複している場合があります。しかし今回の作表に当たっては色の濃淡で表す方法によっているため、不自然な空白が出来ないように前後の傾向から推測して作表しています。



4 探鳥会観察記録について

現在、探鳥会データは、毎回、探鳥会の終わりに行う「鳥合わせ」で確認、支部へ報告し、支部でデータ入力して蓄積されています。この方式は2000年からすべての支部主催定例探鳥会について実施されており、データ入力は支部事務局により行われ公式記録となっています。

名城公園探鳥会の1981年から1999年までのデータは、案内人佐藤が鳥合わせ結果を自宅パソコンで集計していたものを支部へ提供し、データ結合して利用してもらっています。なお、佐藤がデータ集計を始めるに当たって記録していなかった27回までのデータは、初期の案内人、鈴木さん・一色さん・三浦さんから提供されたデータを使って集計しています。



5 案内人担当期間（担当開始順、敬称略、2019年（令和元年）10月現在）

鈴木 謙	1981年（昭和56年）～1984年（昭和59年）
一色正美	1981年（昭和56年）～1984年（昭和59年）
落合宏一	1981年（昭和56年）～2002年（平成14年）
三浦 馨	1981年（昭和56年）～1995年（平成7年）
土方まゆみ	1981年（昭和56年）～1983年（昭和58年）
佐藤文昶	1985年（昭和60年）～2007年（平成19年）
久田公重	1985年（昭和60年）～2008年（平成20年）
大口 寛	1986年（昭和61年）～1990年（平成2年）
右高幸男	1986年（昭和61年）～現在
秋山幸之朗	2002年（平成14年）～現在
大崎敏広	2007年（平成19年）～現在

～参考資料～

第6回全国都市緑化なごやフェア「公式ガイドブック」1988年
世界デザイン博「公式ステージガイド」1989年
溝口常俊「古地図で楽しむなごや今昔」風媒社 2014年
「名城公園（北園）管理運営方針」名古屋市 2015年（Net検索）
「日本野鳥の会名古屋支部および愛知県支部 支部報」各号





アオジ



コゲラ



シジュウカラ



ルリビタキ



キビタキ



オオルリ



モズ

名城公園で見られる鳥 山野編



ツグミ



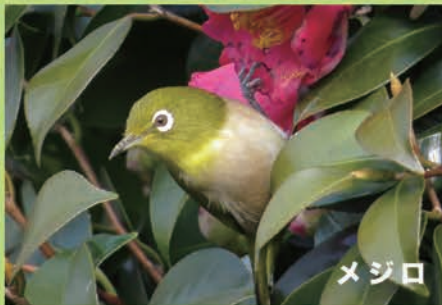
シロハラ



オオタカ



ジョウビタキ



メジロ



イカル



ハクセキレイ



ヒンズイ



シメ



名城公園探鳥会について

名城公園は名古屋城を中心とした城址公園です。今では戦後植えられた木々が育ち、芝生広場を中心にうっそうと繁る木々に囲まれています。また市民の公園として親しまれており、春の花見、各種イベントや散策、ジョギングに利用され、サイクリングロードやランニングコース、野球場も設けられていて休日には多くの方が訪れます。

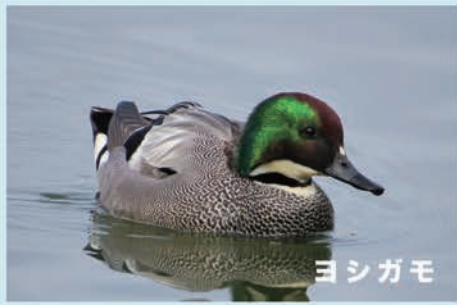
名城公園探鳥会は昭和56年1月から始まりました。日本野鳥の会愛知県支部主催の探鳥会では最も都心で行なわれています。観察コースとして前半は集合場所の東門前駐車場入り口からお堀に沿って藤の回廊を天守閣下付近まで歩きます。空堀、葦原に来る鳥、市民の森の鳥、お堀の水鳥を見ていきます。後半は名城公園北園へ入り、御深井池を見ながら木々の間の鳥を探し、芝生広場を左回りに廻って野外ステージで鳥合わせをして終了です。

観察ポイント	探鳥会で見られる鳥 留鳥 黒 夏鳥 赤 冬鳥 青
① 集合場所～空堀 フィールドマナー「やさしいきもち」で開始します。 野鳥の生活をのぞかせてもらいましょう。	ジョウビタキ ビンズイ シメ ツグミ ツバメ
② 葦原 冬はジョウビタキの縄張り。アシの中にクイナ。 たまにタヌキも出ます。	ジョウビタキ バン クイナ アオジ ゴイサギ カワセミ オオヨシキリ
③ 松の木 松の横枝にオオタカが止まって見下ろしています。	オオタカ アカゲラ
④ 市民の森 初夏は藤棚の下で夏鳥のさえずりが聞かれ、 冬はツグミ、シロハラが地面に降ります。	オオルリ キビタキ コサメビタキ センダイムシクイ ツグミ シロハラ シジュウカラ メジロ
⑤ お堀 冬はカモ類やユリカモメでにぎわいます。 セキレイやカワセミが水面上を渡ります。	カイツブリ ヨシガモ マガモ カルガモ オナガガモ ホシハジロ キンクロハジロ ユリカモメ オオバン
⑥ 石垣 カワセミの止まり場所です。 求愛給餌が見られるかも。	カワウ アオサギ カワセミ
⑦ 池沿いの木 ここから後半です。 春にアオサギが営巣するようになりました。	アオサギ
⑧ 御深井池 サギの餌採りやカワセミが近くで見られます。	アオサギ ダイサギ コサギ カワセミ
⑨ 広場沿いの林 初夏は新緑に包まれます。 秋にも夏鳥が立ち寄ります。	オオルリ キビタキ コサメビタキ ツグミ シロハラ コゲラ
⑩ 野鳥観察スポット この辺りも観察ポイントです。最後に鳥合わせで 見られた鳥を確認して終了します。	オオルリ キビタキ ルリビタキ

この公園は鳥たちにとっても都心にあるオアシスとして人気が高いようで、最近の記録では年間60種類ほどの鳥が見られています。栄からわずかな距離にありながらメジロ、コゲラ、シジュウカラなど身近な留鳥を始め、空を見上げると上空を旋回する猛禽、春秋の「渡り」のシーズンにはオオルリ、キビタキなどの夏鳥、冬には北からジョウビタキ、ツグミが飛来してその姿が見られます。またお堀にはカモ類やユリカモメが群れでやって来ます。それは渡り鳥が名古屋上空を通過するのにちょうど良い位置に森と水（お堀）があるせいでしょう。

そしてここは私たちにとっても野鳥を観察するのに最適な環境でもあります。特にお堀は鳥と人とを適度な距離においてくれ、かつ、さえぎる物も無く、楽に水鳥を見ることが出来ます。公園の森も散策しやすいので、山野の鳥も見つけやすいです。

季節ごとに様々な鳥が見られますが、ここで代表的な鳥はカワセミでしょう。お堀の葦や石垣、御深井池で毎回のように見られ、魚を採るところ、求愛給餌も観察出来ます。最近はお堀にナポレオンハットの美しいヨシガモが飛来したり、春にアオサギが木の上で営巣するようになりました。そしてお堀の葦原にクイナ、バン、城内の木にオオタカ（いずれも準絶滅危惧種 越冬 NT レッドリストあいち）が見られ、彼らの貴重な越冬地にもなっています。



名城公園で見られる鳥 水辺編



観察記録の解析

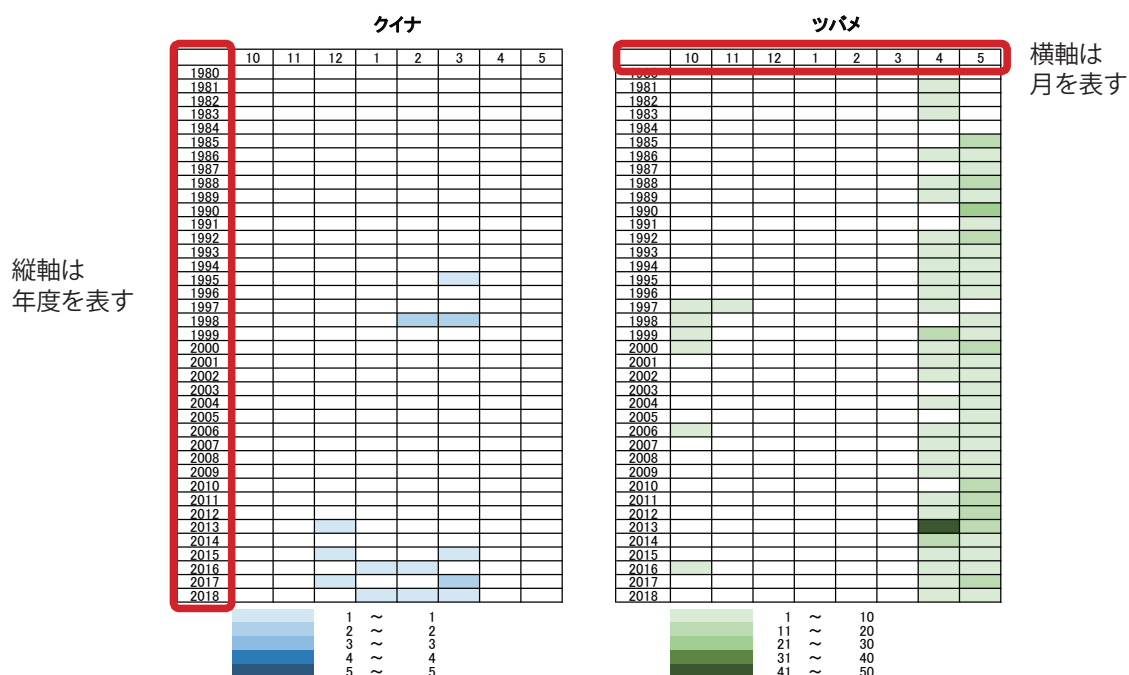
探鳥会で見られた主な鳥の数をヒートマップで表しました。
ヒートマップの見方は、以下のとおりです。

● 色について

青：水辺の鳥
緑：山野の鳥

● 色の濃淡

最大観察個体数を基準に 5 段階に分けてあります。ただし、最も濃い=最大個体数ではありません。



● カモ類

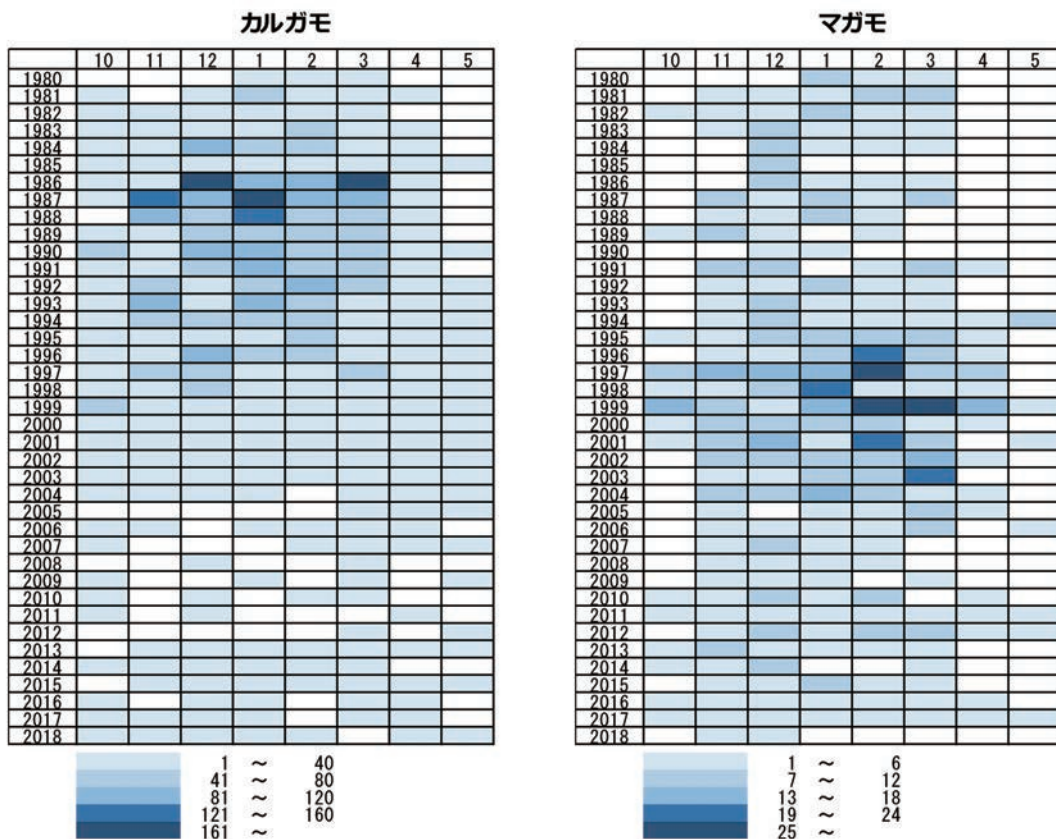
現在は年間を通じて数羽しか見ることのできないカルガモは、探鳥会の初期（1981～1995）においては最も多く観察できるカモだった。しかし、そこから数が減り始め、代わりに初期にそれほど数がいなかったマガモ、オナガガモ、ホシハジロが増加している。

特にオナガガモは2000年あたりのピーク時には800羽以上になり、お堀でもっとも多く見られるカモ類になっていたが、3種もここを境にして数が減り始め、現在はピーク時の十分の一ほどになっている。近年これらの3種に替わり増加傾向にあるのが、キンクロハジロ、コガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ハシビロガモであるが個体数がどれもあまり多くないため、全体として堀のカモはかなり減った印象がある。このようにお堀の主なカモの種類が定期的に入れ替わるようになっているが、これがいかなる要因のものであるか興味深い。他に全期を通じて時々少数見られるものとしてヒドリガモ、過去に観察されたことがあるが、ここ十年以上ほとんど見られないものとしてオシドリ、トモエガモ、スズガモがいる。

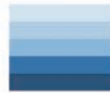
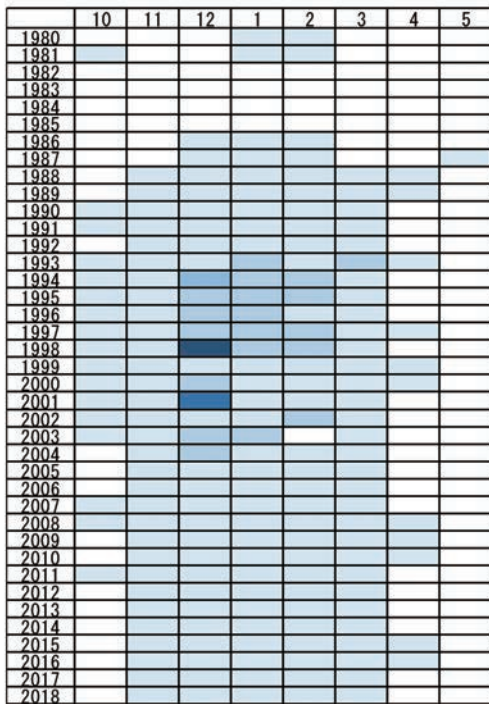
● カイツブリ

ここ数年、探鳥会で見る機会が減っているが、1990～2010年の間は比較的多く見られた。

増減のパターンがオナガガモやマガモと似ており、その要因に共通点があるのかもしれない。また、ここ数年営巣場所にできる葦原付近に、野良猫やタヌキが頻繁に歩き回るようになったことで営巣が困難になっており、それが減少の一因と考えられる。

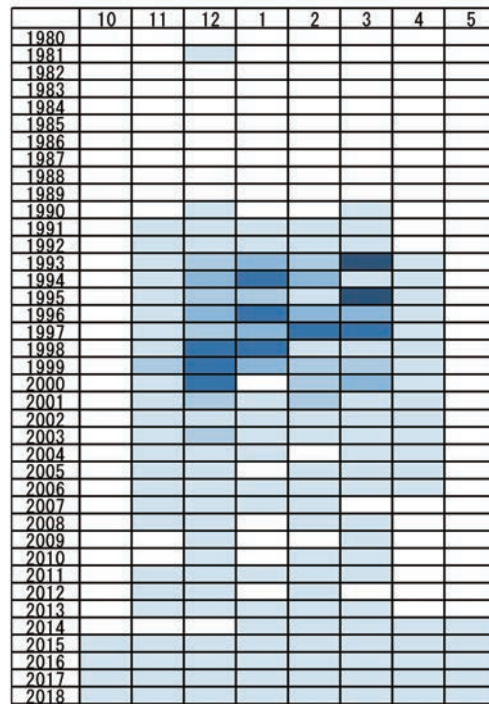


オナガガモ



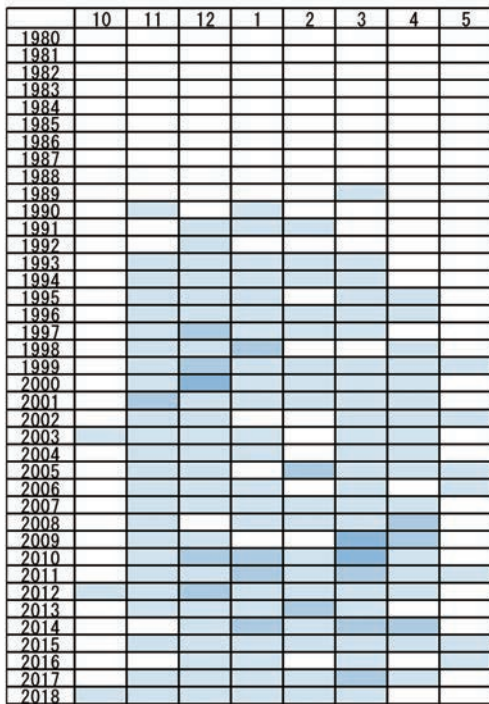
1 ~ 180
181 ~ 360
361 ~ 540
541 ~ 720

ホシハジロ



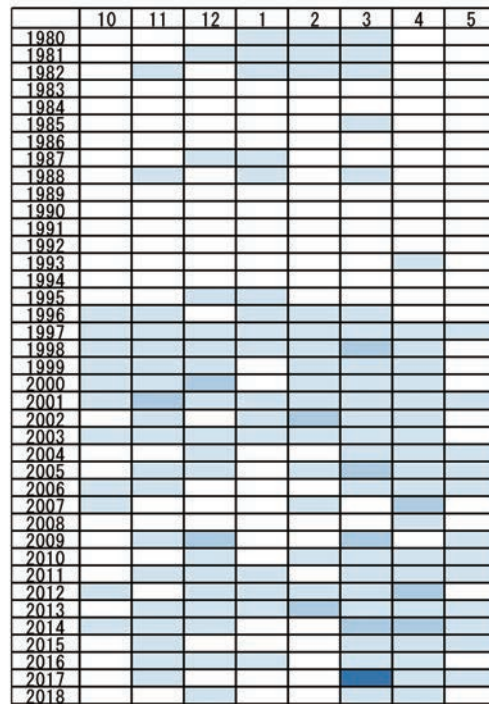
1 ~ 100
101 ~ 200
201 ~ 300
301 ~ 400

キンクロハジロ



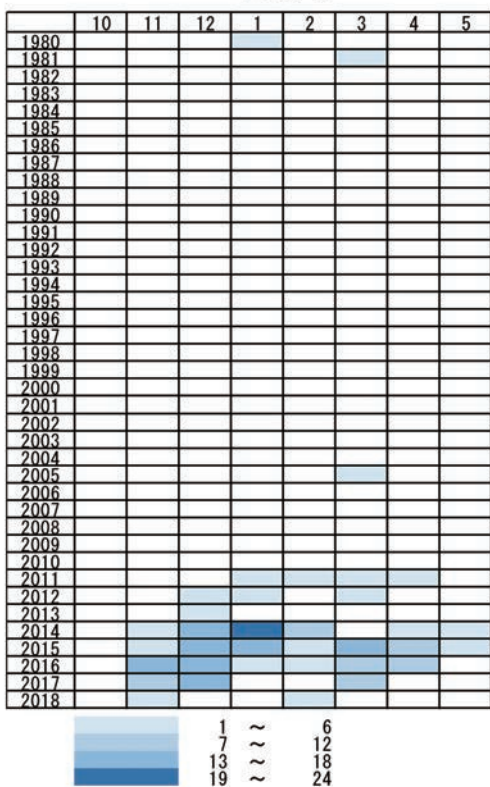
1 ~ 40
41 ~ 80
81 ~ 120

コガモ

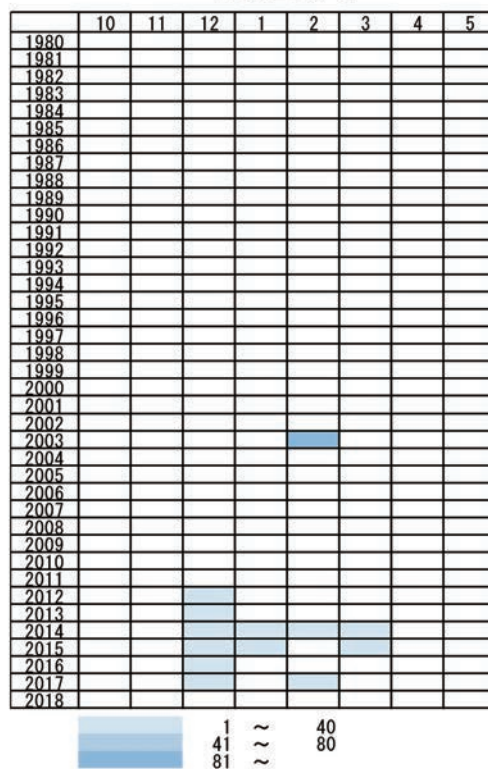


1 ~ 40
41 ~ 80
81 ~ 120
121 ~ 160

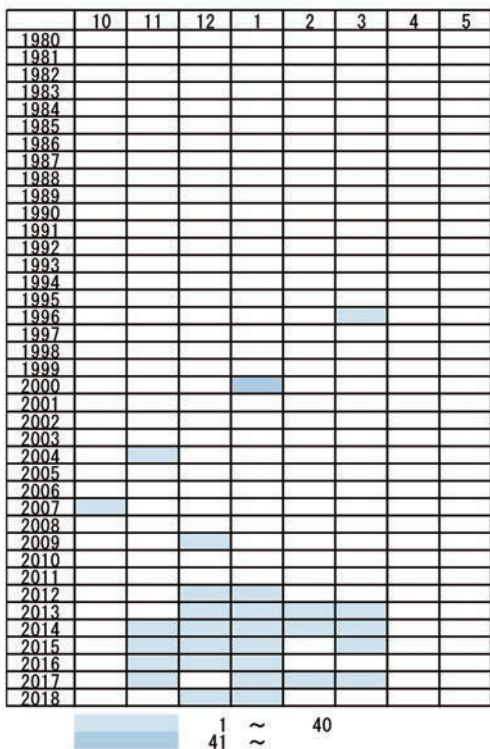
ヨシガモ



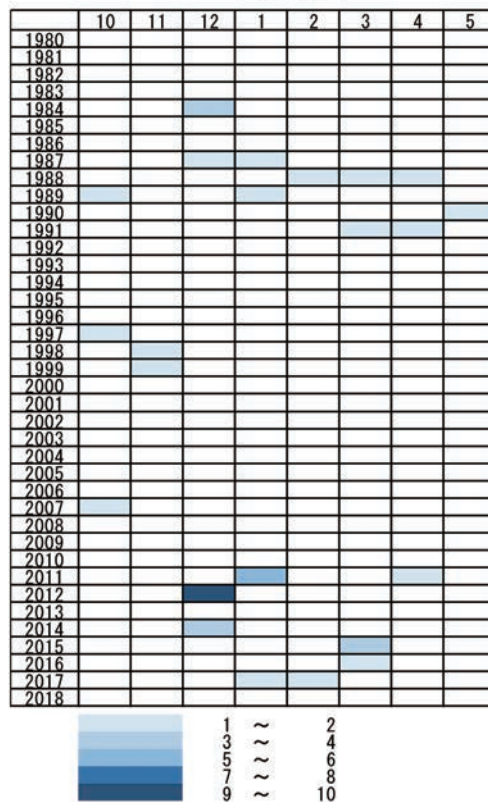
オカヨシガモ



ハシビロガモ



ヒドリガモ



オシドリ

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								



1
2
3

トモエガモ

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								



1
2
3

スズガモ

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								



1

カイツブリ

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								



1
5
9

~

~

~

4
8
12

● サギ類

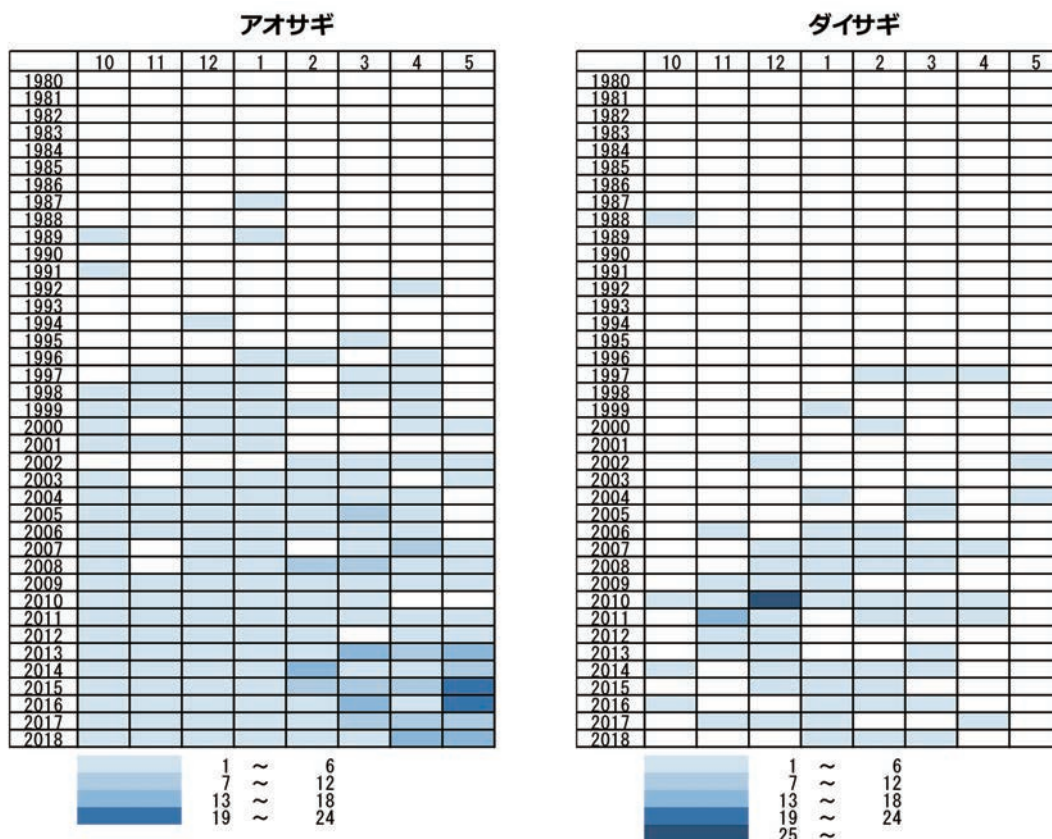
コサギはほぼ1回目から300回目までのほぼ全期間見られている。ゴイサギは1990～2008年までは数が多く、公園内をねぐらにする個体も見られたが、2008年以降はぱったりと姿が見られなくなってしまった。代わりに、2000年以前はあまり見られなかったダイサギとアオサギが見られるようになり、特にアオサギは公園内で営巣しているものも見られる。そのほか、ヨシゴイが時々観察されることがあったが、ゴイサギ同様近年は姿を見せていない。これは、カイツブリと同様に葦原周辺に野良猫が増えたのが原因かもしれない。ササゴイは観察回数が少ないが、お堀の北側の探鳥ルートから外れた場所に飛来することが多いので探鳥会での観察頻度が実態より少ないと思われる。

● カワウ

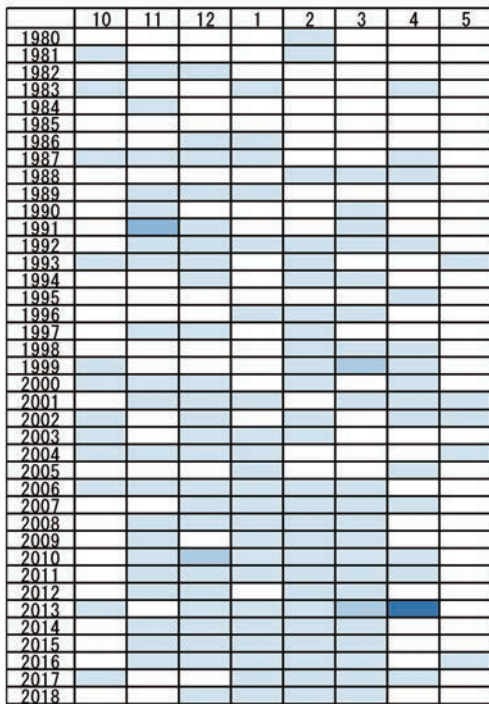
カワウの数は、アオサギやダイサギと同じく2000年前後から増加している。堀川に遡上したボラを採りに来た際の休憩地として利用しているらしく、一時期は冬になると石垣にびっしりとカワウが張り付いている光景が見られた。しかし、糞害を懸念して枝打ちなどの対策が行われ、現在はそれほどの大群は見られない。

● カワセミ

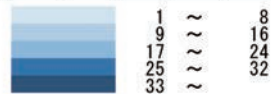
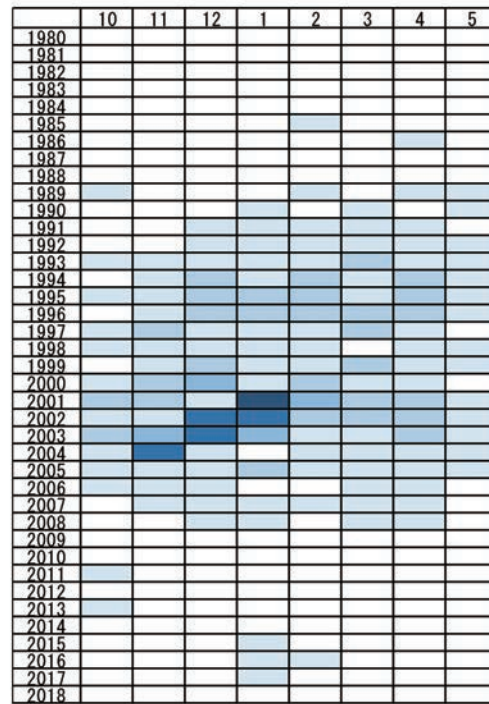
名城公園探鳥会の目玉だけあって、カワセミは時々見られない月があるものの、ほぼ全期において観察されている。ただ、それほど個体数が多い鳥ではないので最も多くても5羽程度である。ここ数年は石垣改修工事の影響なのか、お堀で見られる機会が減り、公園の御深井（おふけ）池で姿を見ることが多くなっている印象がある。



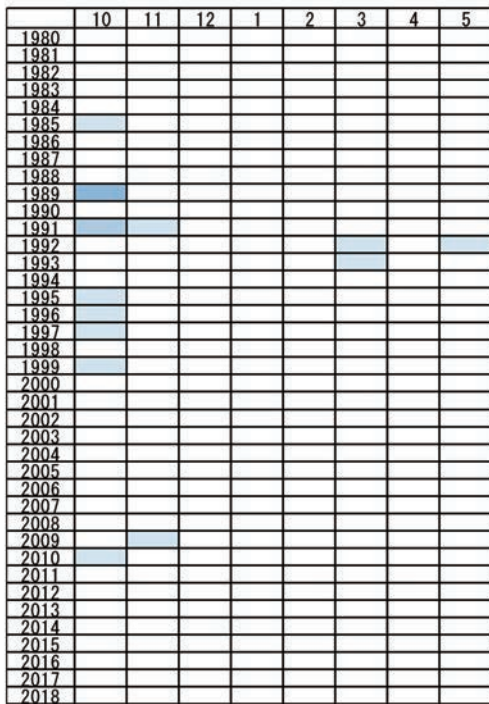
コサギ



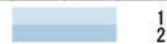
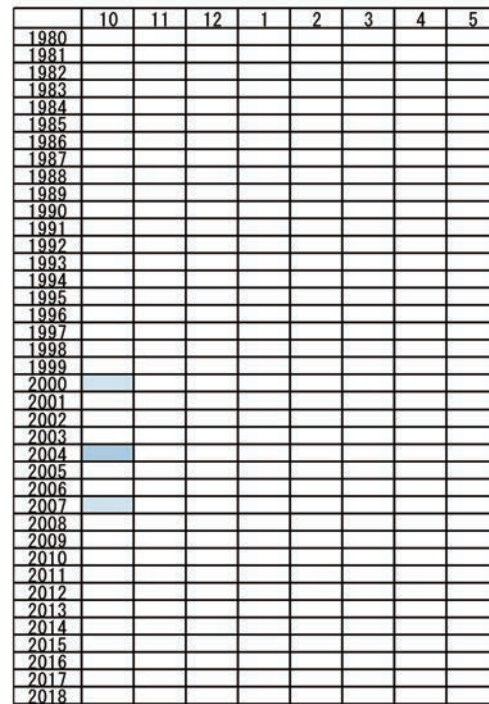
ゴイサギ



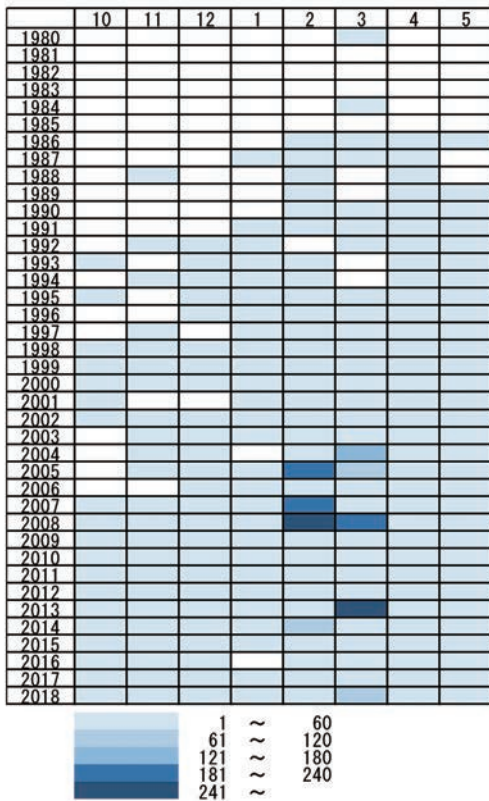
ヨゴイ



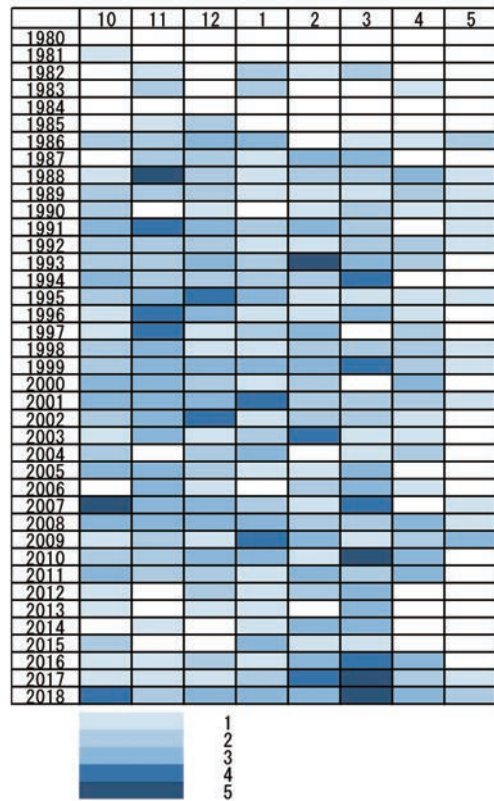
ササゴイ



カワウ



カワセミ



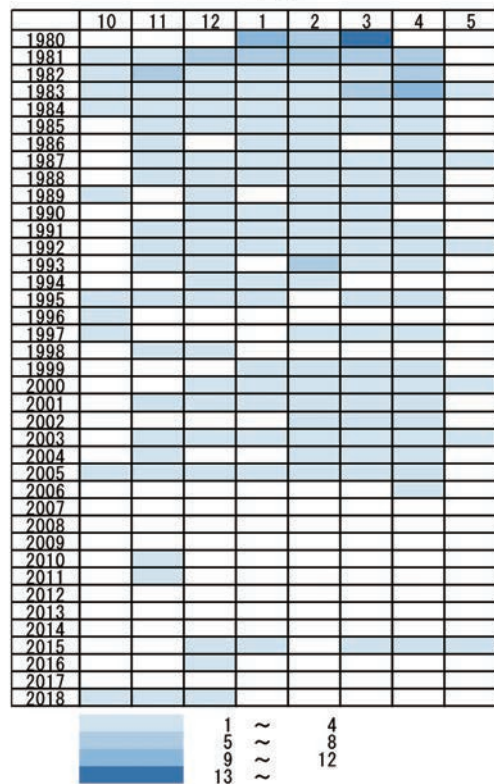
● クイナ類

バンは初期には比較的多く見られたが、徐々に数を減らし今はあまり見られなくなってしまった。オオバンは5年くらい前から冬季に飛来するようになり、今では初期のバンと同じくらいの数が見られる。オオバンの増加は全国的に見られ、名城公園も例外ではなかった。バンがほとんど見られなくなってから、オオバンが姿を見せるようになるまで5年くらいの期間があり、オオバンがバンを追い出したというわけではないようである。クイナは近年少数ながら姿をみせるようになっている。

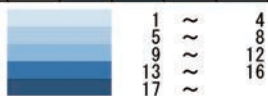
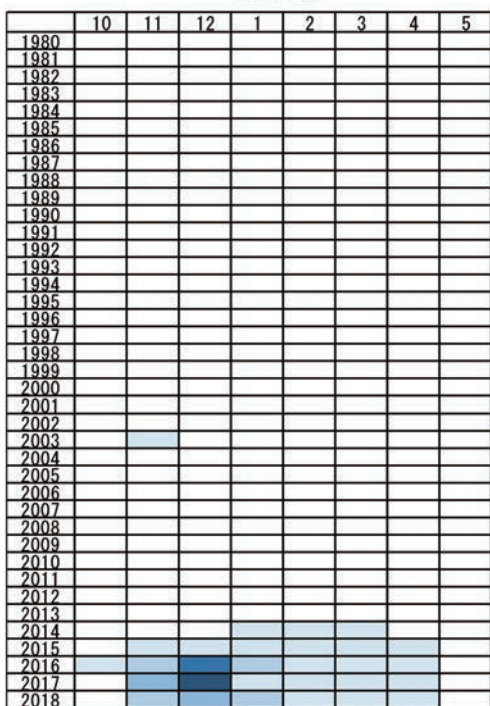
● ツバメ類

現在、名城公園で見られるツバメ類は4～5月に見られるバメのみだが、過去にはコシアカツバメやイワツバメが見られることもあった。またアマツバメやヒメアマツバメなどのアマツバメの仲間も見られたことがある。

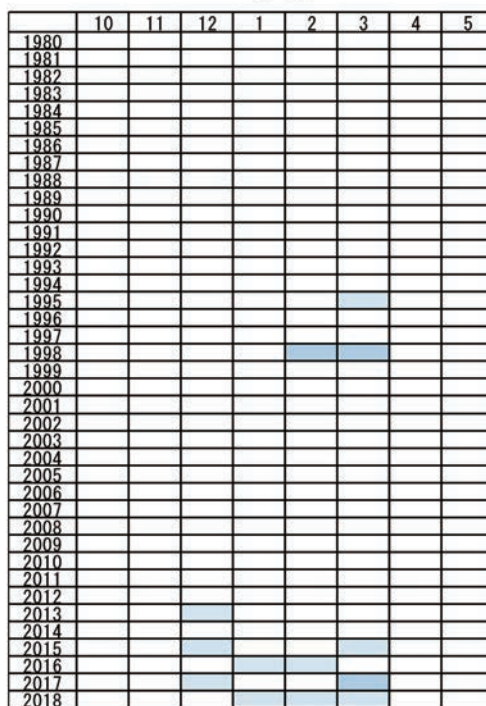
バン



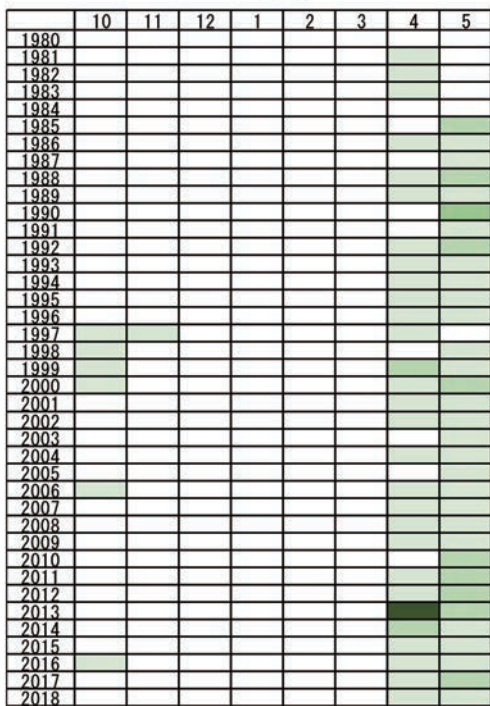
オオバン



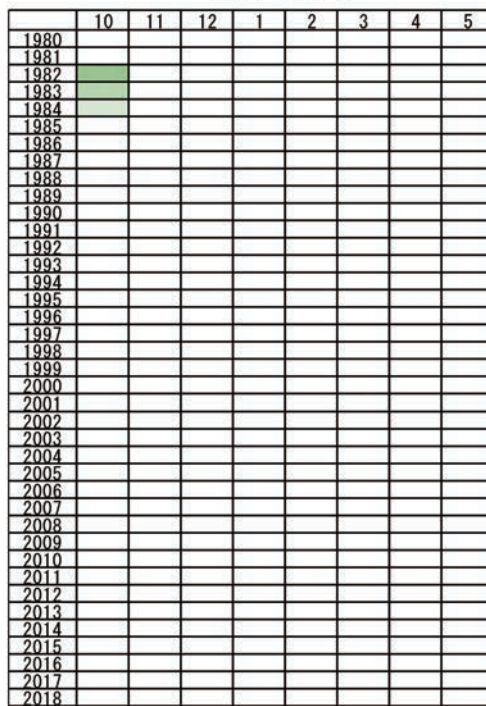
クイナ



ツバメ

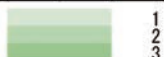


コシアカツバメ



ヒメアマツバメ

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994			■					
1995			■					
1996			■				■	
1997					■			
1998					■			
1999			■					
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								



1
2
3

● セキレイ類

ハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイは全期を通じて数の変動は見られず、全体として観察できた回数はハクセキレイ>セグロセキレイ>キセキレイとなっている。

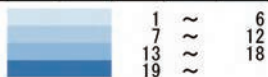
都市部では乾燥した環境に適応しているハクセキレイが優勢になるので、そのためと思われる。ビンズイは冬鳥として1990年あたりから見られるようになった。

● カモメ類

もっともよく見られるのはユリカモメで、近年数が減っているものの多いときはカモメ類と同じくらいの数を見られることがある。セグロカモメやウミネコは時々ユリカモメの群れに混じって1~2羽が見られる程度である。コアジサシは5月あたりにお堀に飛来することがある。

ハクセキレイ

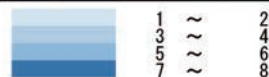
	10	11	12	1	2	3	4	5
1980	■	■	■	■	■	■	■	■
1981	■	■	■	■	■	■	■	■
1982	■	■	■	■	■	■	■	■
1983	■	■	■	■	■	■	■	■
1984	■	■	■	■	■	■	■	■
1985	■	■	■	■	■	■	■	■
1986	■	■	■	■	■	■	■	■
1987	■	■	■	■	■	■	■	■
1988	■	■	■	■	■	■	■	■
1989	■	■	■	■	■	■	■	■
1990	■	■	■	■	■	■	■	■
1991	■	■	■	■	■	■	■	■
1992	■	■	■	■	■	■	■	■
1993	■	■	■	■	■	■	■	■
1994	■	■	■	■	■	■	■	■
1995	■	■	■	■	■	■	■	■
1996	■	■	■	■	■	■	■	■
1997	■	■	■	■	■	■	■	■
1998	■	■	■	■	■	■	■	■
1999	■	■	■	■	■	■	■	■
2000	■	■	■	■	■	■	■	■
2001	■	■	■	■	■	■	■	■
2002	■	■	■	■	■	■	■	■
2003	■	■	■	■	■	■	■	■
2004	■	■	■	■	■	■	■	■
2005	■	■	■	■	■	■	■	■
2006	■	■	■	■	■	■	■	■
2007	■	■	■	■	■	■	■	■
2008	■	■	■	■	■	■	■	■
2009	■	■	■	■	■	■	■	■
2010	■	■	■	■	■	■	■	■
2011	■	■	■	■	■	■	■	■
2012	■	■	■	■	■	■	■	■
2013	■	■	■	■	■	■	■	■
2014	■	■	■	■	■	■	■	■
2015	■	■	■	■	■	■	■	■
2016	■	■	■	■	■	■	■	■
2017	■	■	■	■	■	■	■	■
2018	■	■	■	■	■	■	■	■



1 ~ 6
7 ~ 12
13 ~ 18
19 ~

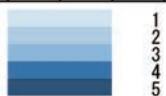
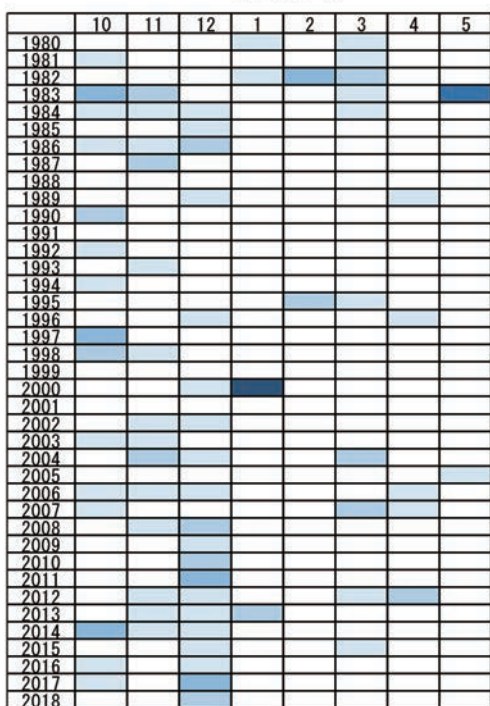
セグロセキレイ

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980	■	■	■	■	■	■	■	■
1981	■	■	■	■	■	■	■	■
1982	■	■	■	■	■	■	■	■
1983	■	■	■	■	■	■	■	■
1984	■	■	■	■	■	■	■	■
1985	■	■	■	■	■	■	■	■
1986	■	■	■	■	■	■	■	■
1987	■	■	■	■	■	■	■	■
1988	■	■	■	■	■	■	■	■
1989	■	■	■	■	■	■	■	■
1990	■	■	■	■	■	■	■	■
1991	■	■	■	■	■	■	■	■
1992	■	■	■	■	■	■	■	■
1993	■	■	■	■	■	■	■	■
1994	■	■	■	■	■	■	■	■
1995	■	■	■	■	■	■	■	■
1996	■	■	■	■	■	■	■	■
1997	■	■	■	■	■	■	■	■
1998	■	■	■	■	■	■	■	■
1999	■	■	■	■	■	■	■	■
2000	■	■	■	■	■	■	■	■
2001	■	■	■	■	■	■	■	■
2002	■	■	■	■	■	■	■	■
2003	■	■	■	■	■	■	■	■
2004	■	■	■	■	■	■	■	■
2005	■	■	■	■	■	■	■	■
2006	■	■	■	■	■	■	■	■
2007	■	■	■	■	■	■	■	■
2008	■	■	■	■	■	■	■	■
2009	■	■	■	■	■	■	■	■
2010	■	■	■	■	■	■	■	■
2011	■	■	■	■	■	■	■	■
2012	■	■	■	■	■	■	■	■
2013	■	■	■	■	■	■	■	■
2014	■	■	■	■	■	■	■	■
2015	■	■	■	■	■	■	■	■
2016	■	■	■	■	■	■	■	■
2017	■	■	■	■	■	■	■	■
2018	■	■	■	■	■	■	■	■

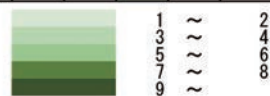
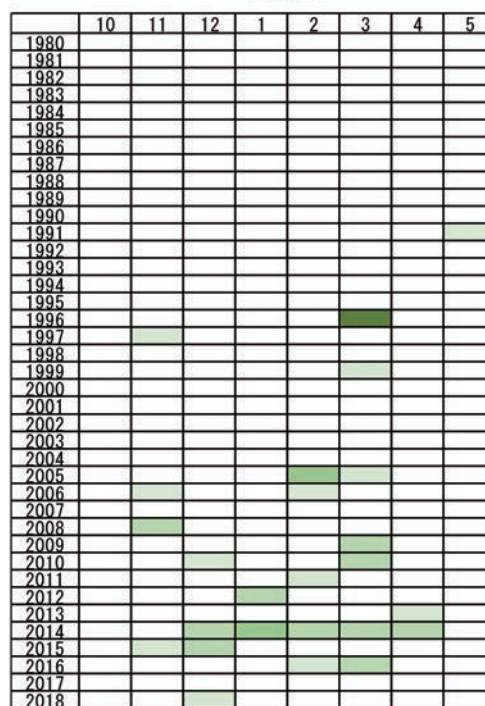


1 ~ 2
3 ~ 4
5 ~ 6
7 ~ 8

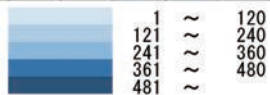
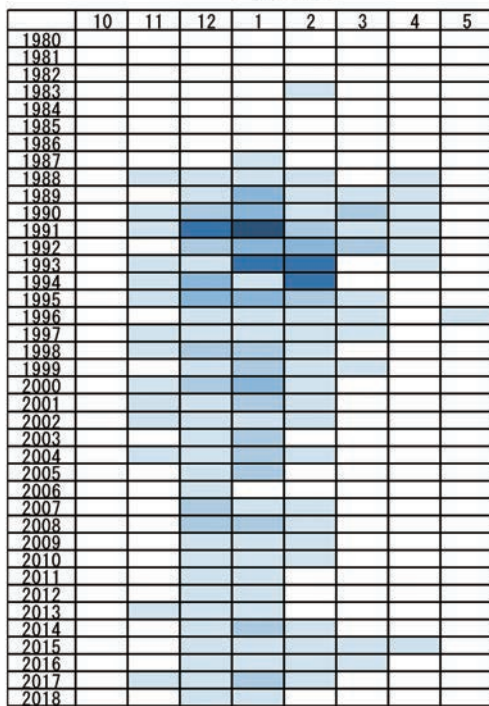
キセキレイ



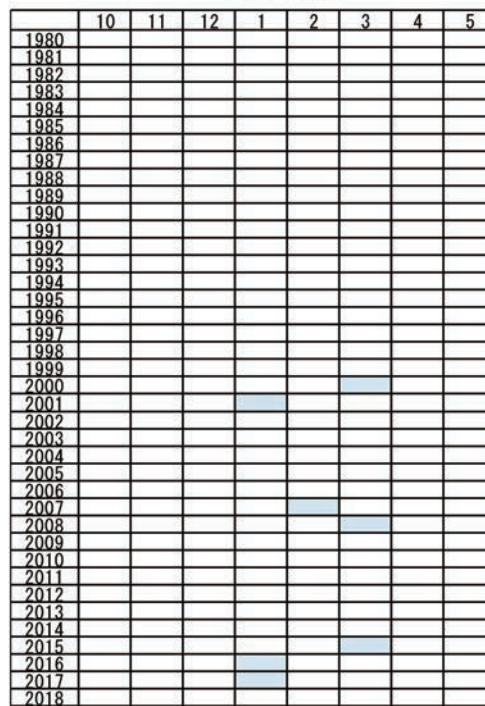
ビンズイ



ユリカモメ



セグロカモメ



ウミネコ

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								

1

コアジサシ

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								

1
2

● シギ・チドリ類

名城公園ではシギやチドリの仲間はあまり見られないが、今までに数回ヤマシギが姿を見せたことがある。初期においてはケリも観察されている。

● ウグイス・ムシクイ類

渡りの途中に名城公園に立ち寄る渡り鳥として、センダイムシクイ、メボソムシクイ、エゾムシクイ、ヤブサメがおり、その中でセンダイムシクイがよく見られる。ウグイスはおもに11月～4月の期間によく見られ、名城公園では冬鳥的な立ち位置になっている。

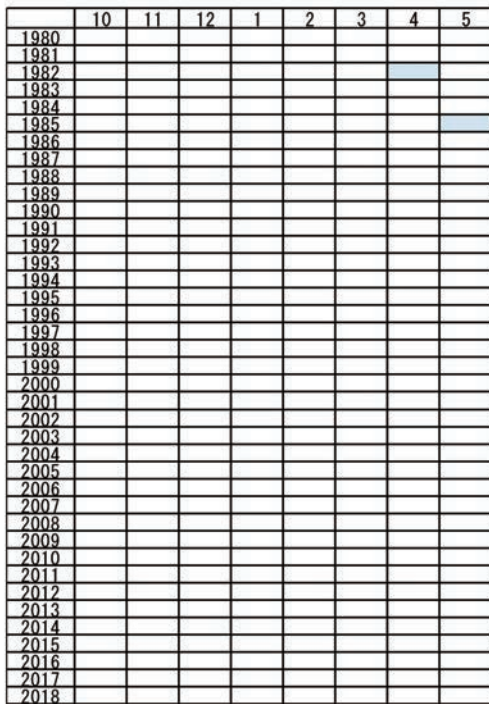
オオヨシキリは夏鳥として見られるが、お堀にアシ原があるにもかかわらず数も観察回数もあまり多くない。コヨシキリも過去に数回観察されたことがある。

ヤマシギ

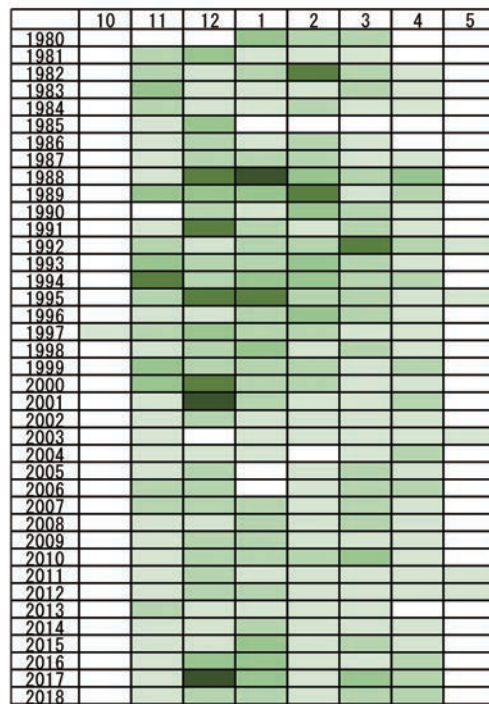
	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								

1

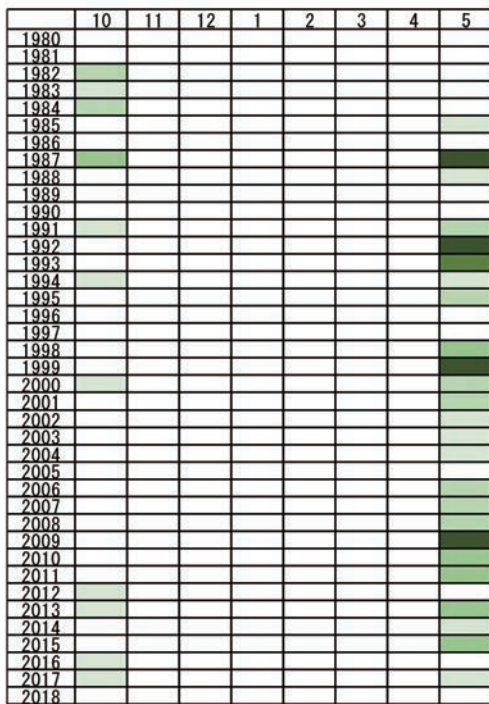
ケリ



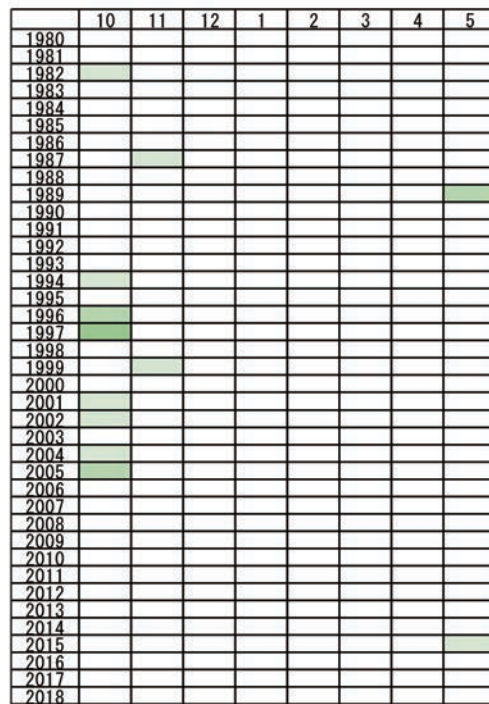
ウグイス



センダイムシクイ



メボソムシクイ



エゾムシクイ

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								

 1/2

ヤブサメ

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								

 1/2

オオヨシキリ

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								

 1/2

コヨシキリ

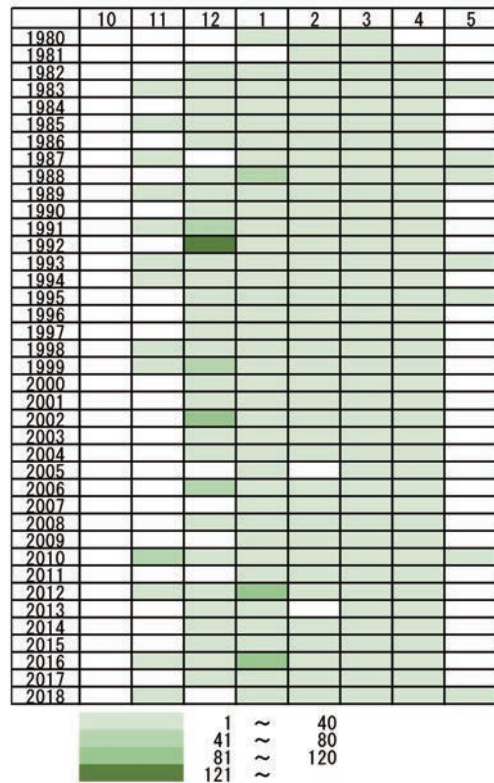
	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								

 1

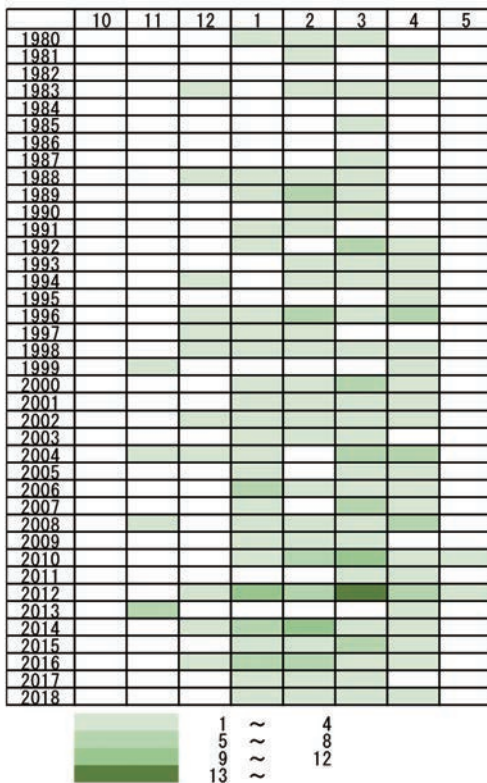
● ツグミ類

名城公園で見られるツグミ類には、冬鳥としてツグミ、シロハラ、アカハラ、ジョウビタキ、ルリビタキがある。ツグミ、ジョウビタキは1～300回の全期を通じて大きな変化は見られない。シロハラ、アカハラはここ数年数少なくなっているが全体的に出現頻度は増えている傾向にある。最近は見られないが、マミチャジナイは1995年、ノゴマは1998年と2006年に観察された記録がある。ルリビタキは2004年～2010年の期間数が増えて観察される機会が多くなり、この時期の探鳥会では大きなカメラを持ってルリビタキを撮影しに集まって来た人々をよく見かけた。

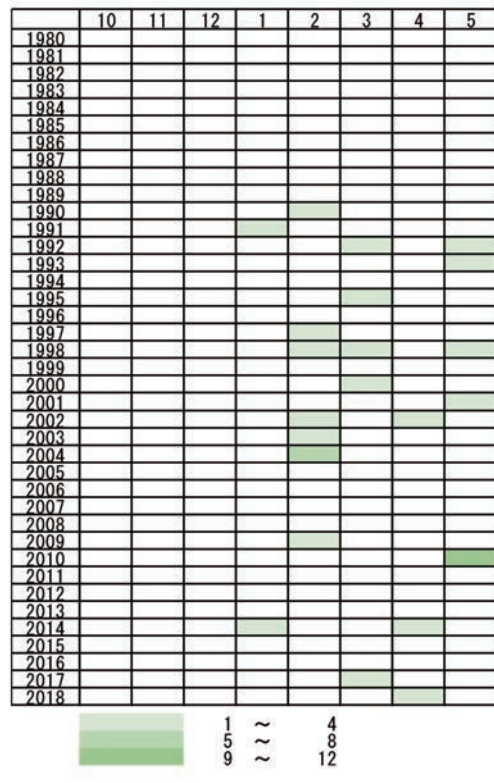
ツグミ



シロハラ



アカハラ



ジョウビタキ

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								



ルリビタキ

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								



マモチャジナイ

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								



ゴマ

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								



● ヒタキ類

渡りの途中で立ち寄る形で春と秋にオオルリ、キビタキ、秋にコサメビタキ、エゾビタキが少数見られる。過去にサメビタキ、ノビタキも観察されたことがあるがここ十年以上は見られない。

● カラ類

名城公園で見られるカラ類にはシジュウカラ、ヤマガラ、ヒガラがいる、シジュウカラは1～300回の探鳥会の全期を通して見られ、樹木の洞に営巣している個体も観察できた。ヤマガラはここ数年見ることが無くなったが、最後に確認できた2014年まではやや増加の傾向にあった。ヒガラは少数がたまに見られる程度である。

オオルリ

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								



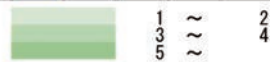
キビタキ

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								



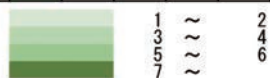
コサメビタキ

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								



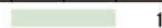
エゾビタキ

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								



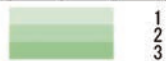
サメビタキ

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								



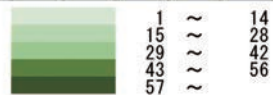
ビタキ

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								

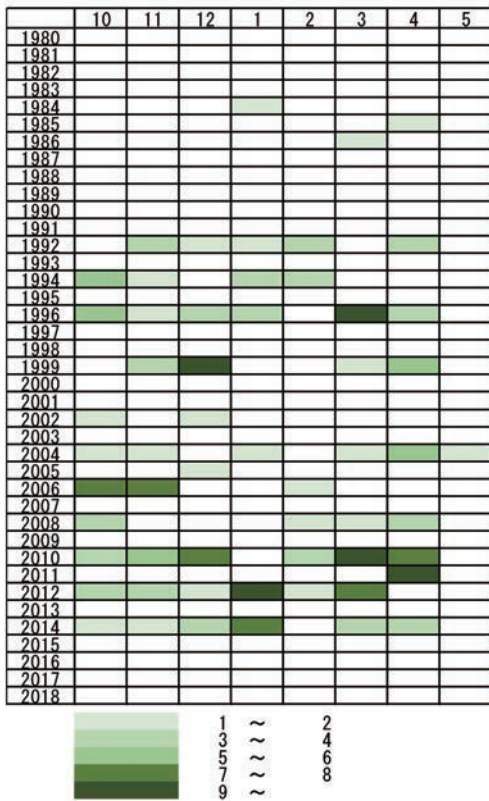


シジュウカラ

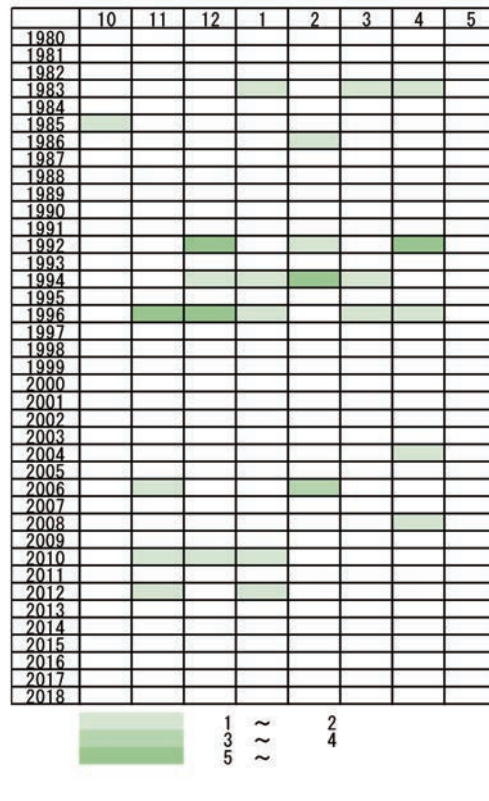
	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								



ヤマガラ



ヒガラ



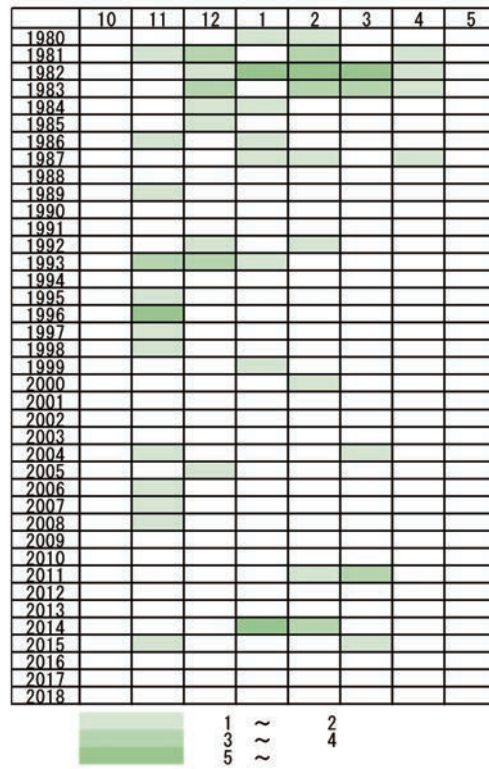
● ホオジロ類

名城公園で見られるホオジロ類にはホオジロと冬鳥のアオジ、オオジュリン、カシラダカがいる。アオジは1～300回の探鳥会の全期を通じてみられるが、ホオジロは初期に比べると徐々に数が減り、ここ数年ではあまり見られなくなっている。カシラダカは時々見られる程度で数は多くない。

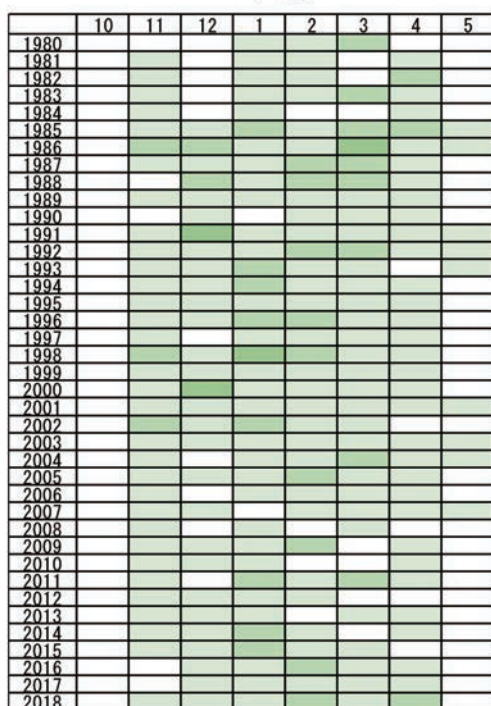


ミヤマホオジロ (P39「1回しか観察されていない鳥種」参照)

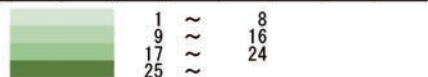
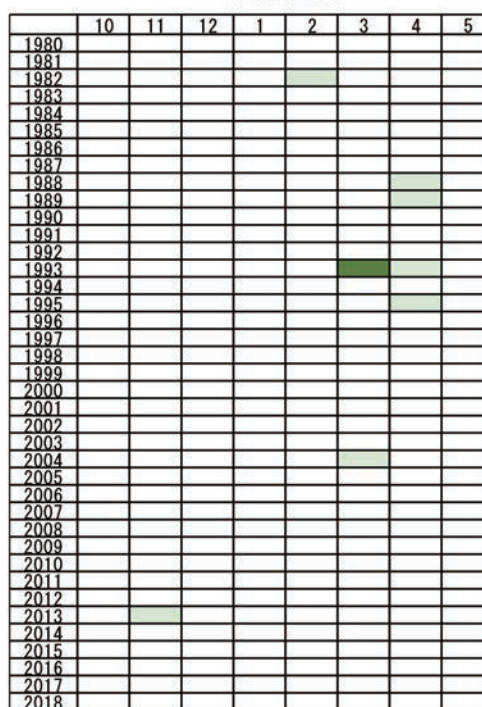
ホオジロ



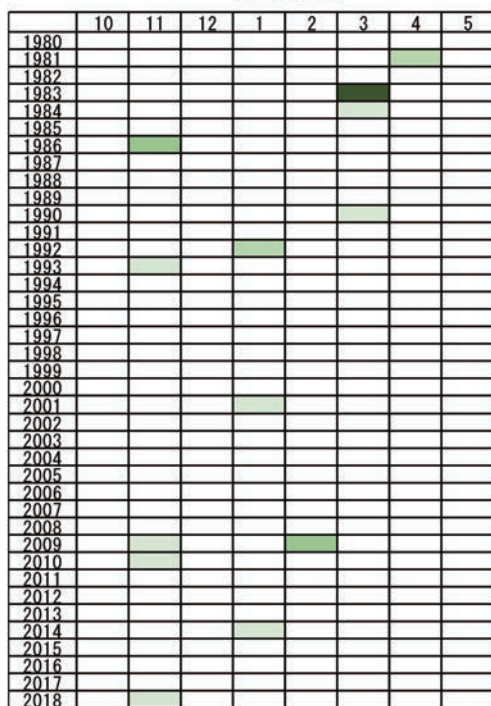
アオジ



オオジュリン



カシラダカ



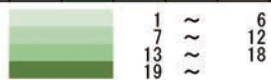
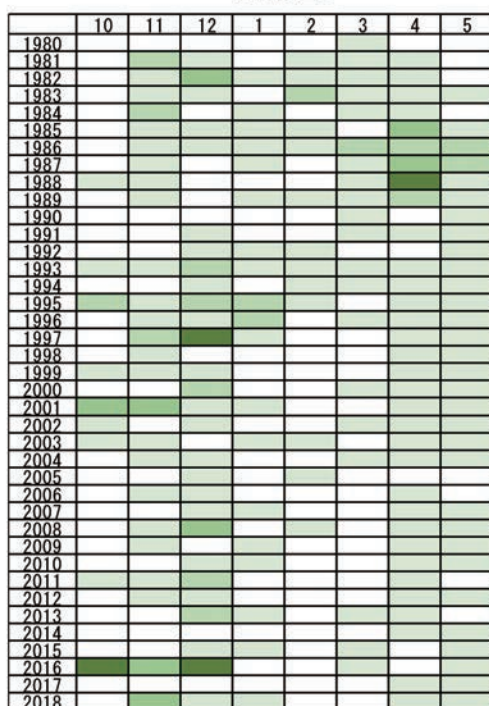
● アトリ類

名城公園で見られるアトリ類にはカワラヒワと冬鳥としてシメ、アトリ、イカル、ベニマシコがいる。イカルは主に探鳥ルートから外れた城内に多いことが多いため、探鳥会で観察される機会が少ない。また、アトリはほとんど見られないがたまたま群れが名城公園に立ち寄った為なのか1999年度、2014年度の2回だけ観察されている。マヒワは1995年度以前に数回観察された記録があるが、ここ十年以上姿を見せたことがない。

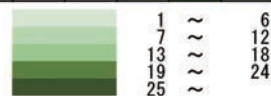
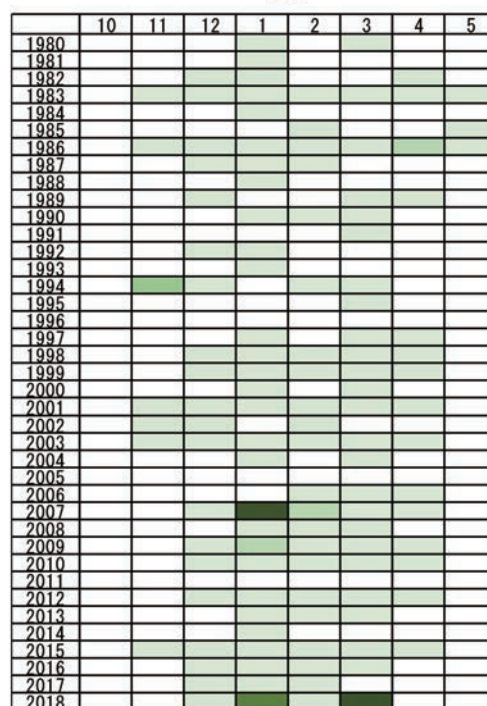


イカル

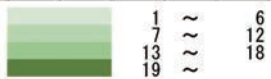
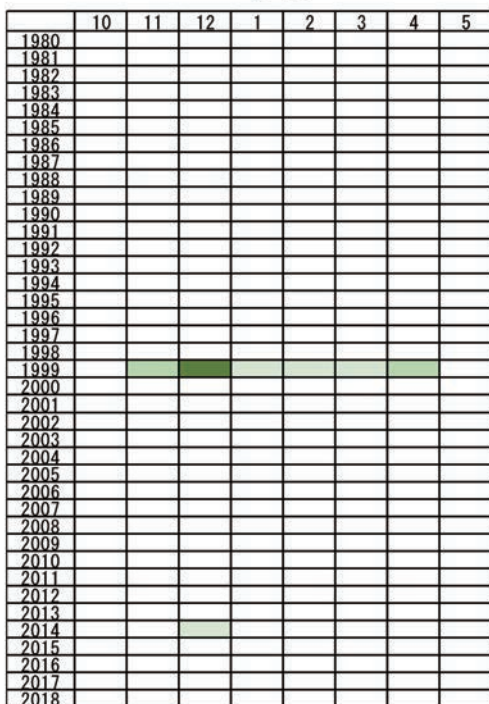
カワラヒワ



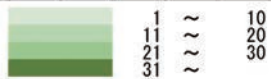
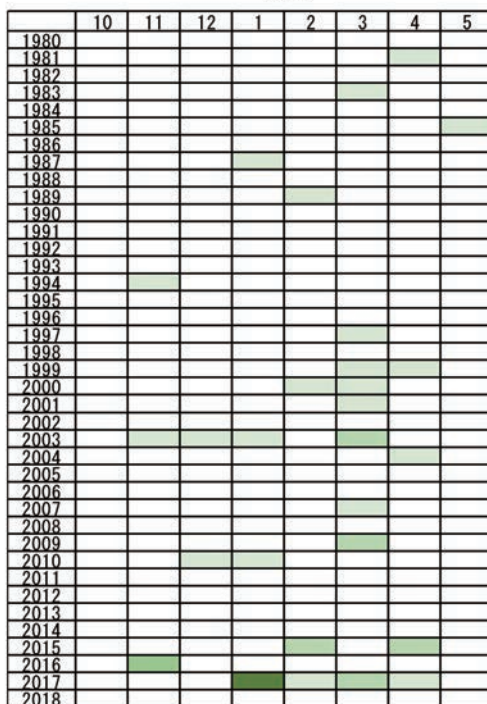
シメ



アトリ

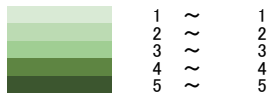


イカル



ベニマシコ

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								



マヒワ

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								



● メジロ、エナガ

樹木の多い公園で良く見られる野鳥であるメジロ、エナガは名城公園でも当然みられるが、エナガは減っているわけではないが、初期に比べると見る機会が減っており、逆にメジロは初期に比べると見る機会がやや増える傾向にある。

● キツツキ類

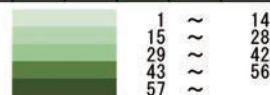
名城公園で見られるキツツキの仲間は主にコゲラでたまにアカゲラも見られる。コゲラ、アカゲラのどちらも 1990 年頃から見られるようになったもので、それより前にキツツキはほとんど観察されていない。

● ハト類

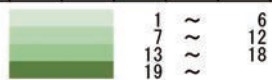
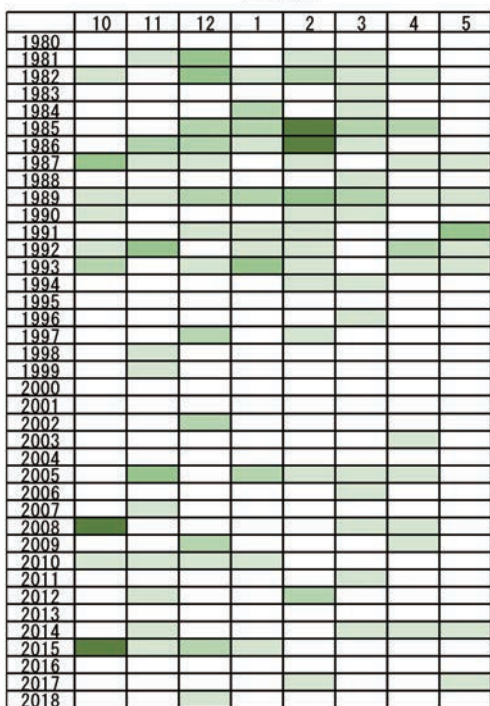
名城公園で見られるハトの仲間はほぼキジバトとドバト（カワラバト）で、1～300 回の全期間を通じて変化がみられない。アオバトが見られた記録もあるが、ごく稀である。

メジロ

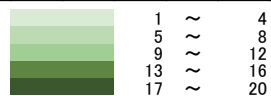
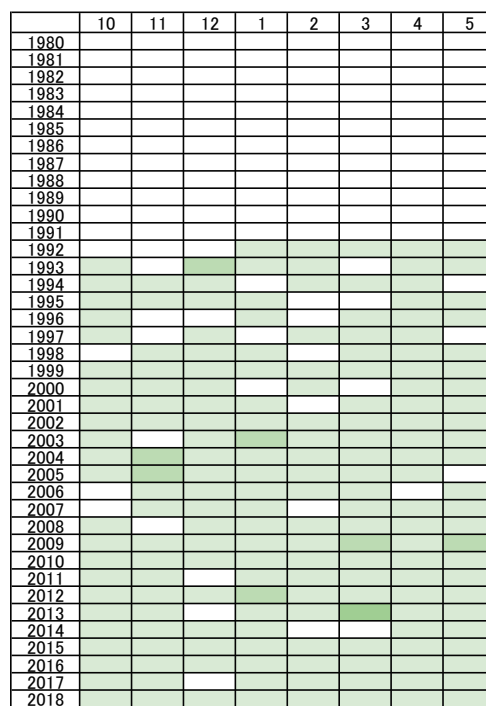
	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								



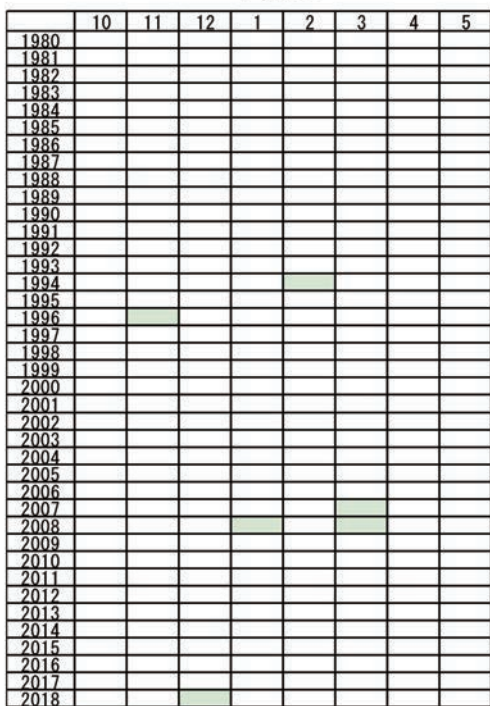
エナガ



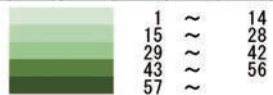
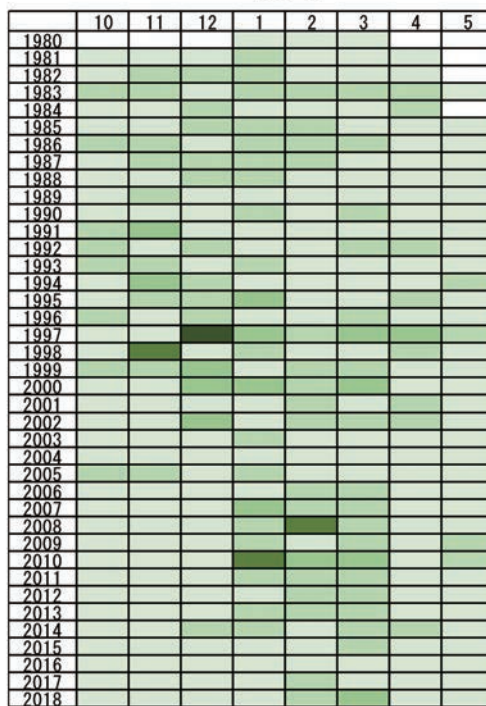
コゲラ



アカゲラ

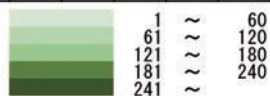


キジバト



ドバト(カラバト)

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								



アオバト

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								



● カラス類

名城公園で見られるカラスの仲間は、1～300回の全期に渡って観察されているハシボソガラスと初期は観察頻度が少なくなったがそこから徐々に増加し今では数においてハシボソガラスとほぼ大差が無くなっているハシブトガラスである。かつてはカケスも見られたが2006年以降は見られなくなっている。

● 猛禽

名城公園で主に見られる猛禽はトビとオオタカで探鳥会の初期はほぼトビしか見られなかったが徐々に少なくなり、入れ替わるようにオオタカが目立つようになっている。最近では名古屋城に飛来したオオタカをカラスの大群がモビングする光景が良く見られる。

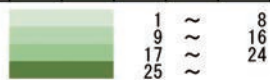
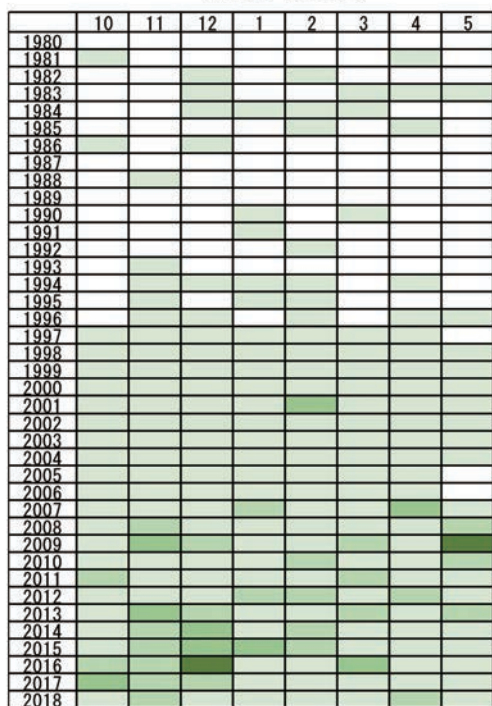
他に少数ながらサシバ、ノスリが見られたが、今はほとんど見られる、近年見られるようになったものにミサゴ、ツミ、ハイタカ、チョウゲンボウがいる。ハチクマは上空を通過したものが観察されたことがある。

ハシボソガラス

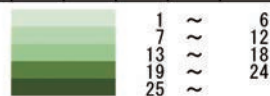
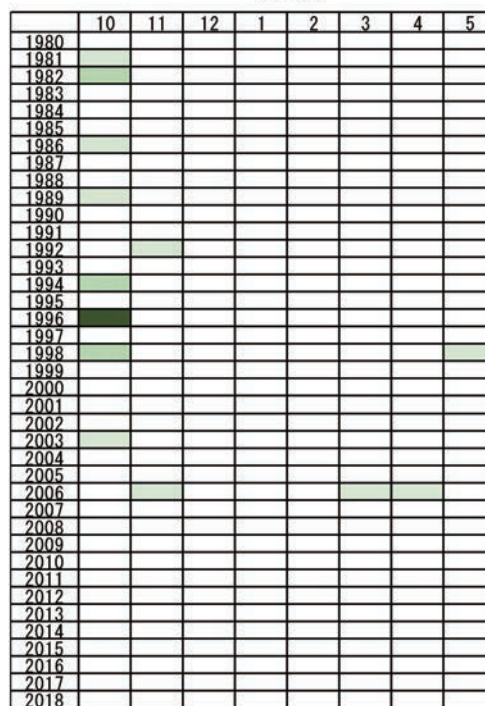
	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								



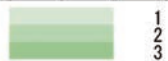
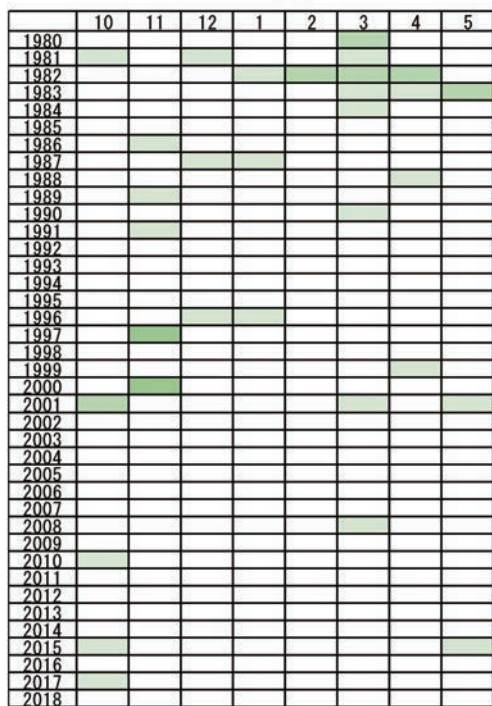
ハシブトガラス



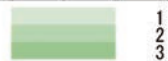
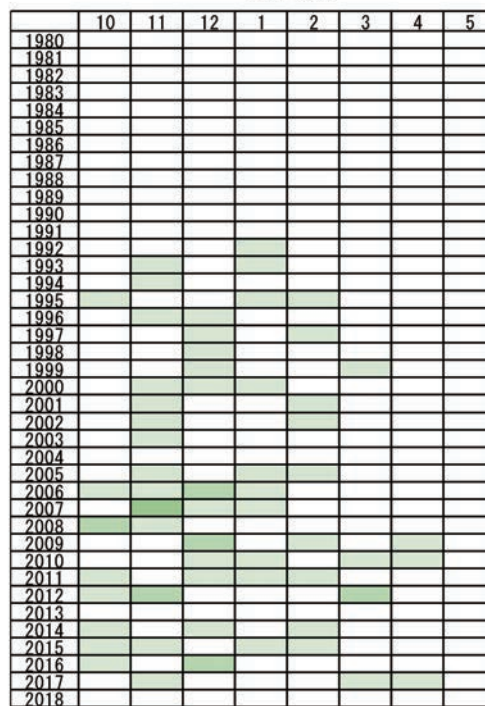
カケス



ヒ



オオカ



サシバ

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								



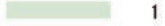
スリ

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								



ミサゴ

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								



ツミ

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								



ハイタカ

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								



チョウゲンボウ

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								



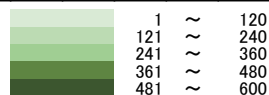
● 留鳥、その他

公園であればどこでも見られる、スズメ、ヒヨドリ、ムクドリ、モズは名城公園でも見られ、スズメ、ヒヨドリは1～300回の間あまり数に変化は見られず、モズとムクドリは若干減少の傾向が見られる。

全期を通して2回以上見られた名城公園では珍しい鳥としては2012年度に十羽程度の群れが飛来したヒレンジャク、2008年度と2012年度の冬におそらく越冬のために飛来したカヤクグリ、1983年度と2010年度の春に見られたコムクドリ、1982年度と2002年度の冬に見られたキクイタダキ、2011年度の秋から冬に見られたゴジュウカラがいる。

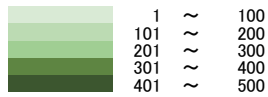
スズメ

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								



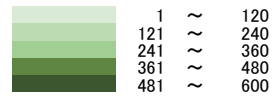
ヒヨドリ

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								



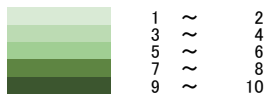
ムクドリ

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								



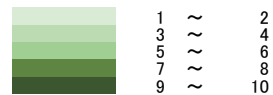
モズ

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								



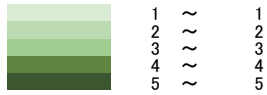
ヒレンジャク

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								



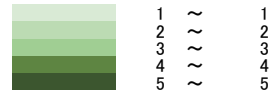
カヤクグリ

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								



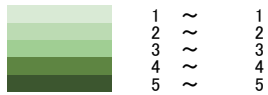
コムドリ

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								



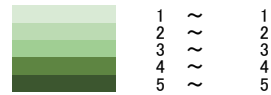
キクイタダキ

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								



ゴジュウカラ

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								



● 外来種

探鳥会の初期において、カゴ脱けしたものと思われるセキセイインコが観察されているが定着しなかったのか 1986 年度を最後に見られなくなっている。

最近、愛知県内でも見られるようになった特定外来種のソウシチョウは今のところ公園内で観察された記録は無い。

コブハクチョウの記録が 2012 年度の春以降からしか無いが、これは元々お堀で飼われている個体であることから、2012 年度冬までは観察種のカウント外とされていたためカウントの基準が変わった 2012 年度の春より前の記録が存在しないためである。現在は 1 羽しかいないが、かつては 2 羽以上の個体が見られた。

コブハクチョウ(外来)

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								

1

セキセイインコ

	10	11	12	1	2	3	4	5
1980								
1981								
1982								
1983								
1984								
1985								
1986								
1987								
1988								
1989								
1990								
1991								
1992								
1993								
1994								
1995								
1996								
1997								
1998								
1999								
2000								
2001								
2002								
2003								
2004								
2005								
2006								
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014								
2015								
2016								
2017								
2018								

1
2
3

● 1回しか観察されていない鳥種

下の表は、これまで探鳥会の全期間を通じて1回しか観察記録のない野鳥である。ホオジロガモ、アカガシラサギ、ミヤマホオジロ、ヨタカのような他の探鳥地においても珍しい鳥もいれば、キジ、チュウサギ、カモメ、ヒバリのような探鳥地によってはいつでも見られるようなありふれた野鳥もある。

ただし、探鳥会は鳥類生息調査と異なり、正確な生息数を確認できるようなルートを歩くわけではないため、観察数と実際の生息数が食い違っている場合もある。例えばサンコウチョウは、ほぼ毎年渡りの時期に名城公園に立ち寄る野鳥であるが、個体数が少ないため探鳥会で遭遇する機会に恵まれず、全期を通して1回しか観察されていない野鳥である。

そのため、探鳥会の他に別のルートで探してみると、これらの鳥を観察する機会に恵まれるかもしれません。

鳥名	観察年月	鳥名	観察年月
キジ	1988年12月	ハヤブサ	2017年12月
ホオジロガモ	2005年1月	サンコウチョウ	1997年1月
ミコアイサ	2008年2月	コガラ	2015年1月
ミミカイツブリ	2000年12月	ヒバリ	1988年4月
ハジロカイツブリ	1999年12月	イワツバメ	2001年4月
アカガシラサギ	2011年12月	キレンジャク	1992年4月
チュウサギ	2017年12月	ミソサザイ	1988年12月
ジュウイチ	2019年5月	マミジロ	1994年5月
カッコウ	2017年10月	クロツグミ	2011年5月
ヨタカ	1997年5月	ムギマキ	2005年5月
アマツバメ	1993年5月	ニューナイスズメ	2010年3月
タカブシギ	1984年10月	コイカル	2018年3月
イソシギ	1997年5月	ミヤマホオジロ	2014年12月
カモメ	2016年3月	コウカンチョウ	1981年2月
アオゲラ	1998年1月	タカブシギ	1984年10月

● 観察回数の変遷

右の表は探鳥会の全期を通じて100回以上観察された野鳥の観察回数を、探鳥会の1~100回、101~200回、201~300回の3つの期間別に分けて、各期間の間の観察回数の増減を記したものである。1~100回から101~200回の間は多くの鳥種で観察回数が増加しているが、101~200回から201~300回の間は、逆に多くの鳥種の観察回数が減少している。特にカモやカワセミなど、主に名古屋城のお堀で観察される水辺の鳥の減少が目立っている。

この表を見る限り、近年は名城公園で野鳥を見る機会が減る傾向にあると言える。

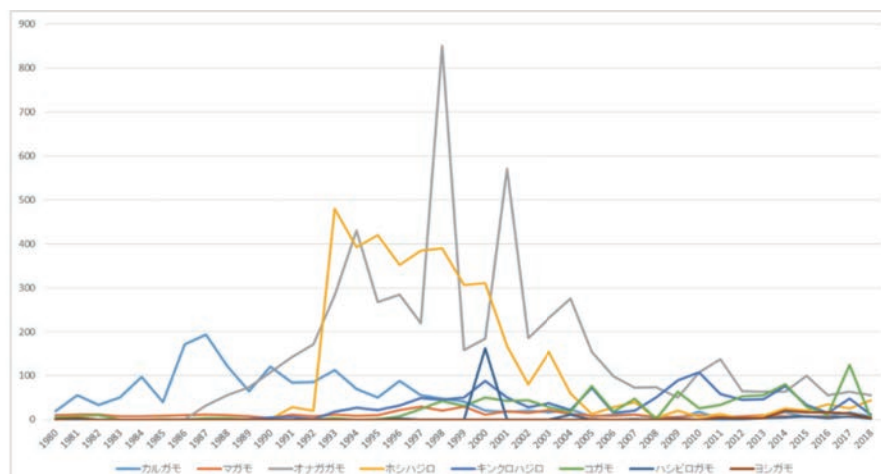
ただ、そういった状況においても、シジュウカラ、キジバト、ドバト、ハシボソガラス、ヒヨドリ、スズメ、ムクドリのような各期間で80回以上観察されている鳥種については、ムクドリを除いて観察回数は増加か変化がない状態である。特にヒヨドリとキジバトは毎回欠かさず観察されている。

鳥名	1~100回	101~200回	201~300回
カルガモ	91	↑	94 ↓ 61
マガモ	55	↑	81 ↓ 71
オナガガモ	44	↑	76 ↓ 70
ホシハジロ	15	↑	73 ↓ 64
キンクロハジロ	9	↑	68 ↑ 71
コガモ	17	↑	64 ↓ 58
カイツブリ	48	↑	84 ↓ 53
カワウ	33	↑	86 ↑ 97
アオサギ	5	↑	55 ↑ 92
コサギ	36	↑	46 ↑ 64
ゴイサギ	23	↑	93 ↓ 22
バン	80	↓	56 ↓ 12
ユリカモメ	31	↑	50 ↓ 37
カワセミ	62	↑	86 ↓ 77
ハクセキレイ	75	↑	79 ↑ 83
セグロセキレイ	58	↓	44 ↑ 84
ウグイス	71	↑	76 ↓ 74
ツグミ	70	↓	67 ↓ 61
ジョウビタキ	52	↑	62 ↑ 64
シロハラ	25	↑	47 47
シジュウカラ	86	↑	97 97
カワラヒワ	65	↓	64 ↓ 47
シメ	36	↑	38 ↑ 44
アオジ	70	↑	76 ↓ 59
キジバト	100	100	100
ドバト(カワラバト)	89	↑	95 ↑ 100
ハシボソガラス	99	↑	100 100
ハシブトガラス	22	↑	83 ↑ 98
メジロ	66	↑	92 ↑ 95
ヒヨドリ	100	100	100
スズメ	100	↓	99 99
ムクドリ	95	↑	97 ↓ 80
モズ	75	↑	77 ↓ 60

増加		減少
↑	大	↓
↑	中	↓
↑	小	↓

● 300 回までの観察数の変遷と総括

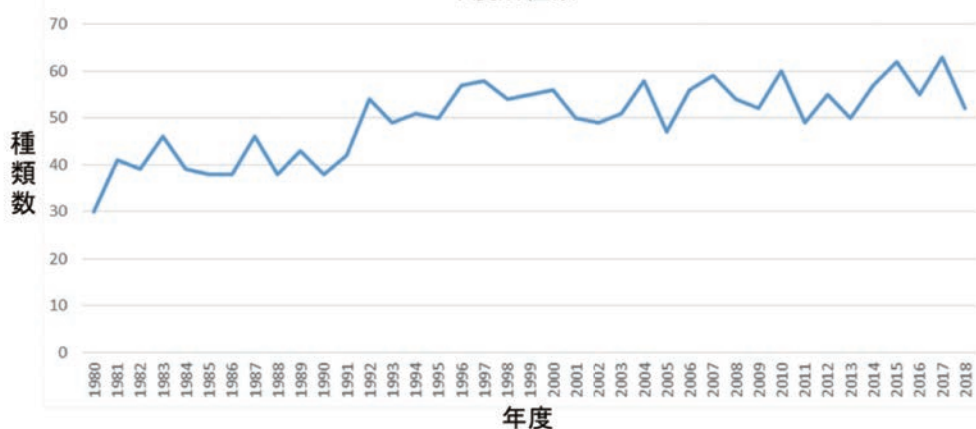
カモの年度別観察個体数



1980年度の第1回から2018年の第300回までの38年間の間の個体数の変化で特徴的なものは上図のカモ類のグラフで見られるような中間の1998年あたりをピークとした山型の変化である。この形の変化はカモ類の他にゴイサギやユリカモメなどにも見られ、38年間の前半で増加し、後半で減少した結果ほぼ2018年には1980年度と同程度の水準に戻っている。ただ、ピーク時からの減少が大きいいため、カモ類で見るとここ十数年くらいで名城公園の鳥が大きく減少した印象がある。この個体数の変動が、どのような原因で起こったのか、あるいは他の探鳥地でも見られたのか興味は尽きない。

一方、下のグラフは第1回から第300回までの観察された鳥の種類数の変遷である、年度ごとの増減のぶれはあるものの全体として種類数が増加傾向にあり、近年は横ばい傾向にあるが個体数の場合とは異なり1回目から一貫して増加している。個体数の変化と合わせるとここ十年くらいで個体数は減ったが種類は増えている形になっている。見られる野鳥の種類は増えているので喜ばしいとは言えるが、鳥種ごとの個体数が減っているため観察できる機会が減ることになるため、痛しかゆしである。

年度別種数



名城公園の珍鳥たち

古いフィールドの記録を引き出すと、名城公園の探鳥会に初めて参加した記録が昭和59年3月4日（第23回）になっている。

300回を数えた探鳥会の中でも、多くの珍鳥と呼ばれる鳥に出会ったが、個人的な観察も含め、思い出深い場面を少し紹介させて頂く。

● ハジロカイツブリとミミカイツブリ

カイツブリは、かつてはお堀や御深井池にハスなどが繁茂していた頃は周年見られていたが、近年ではハスも消滅し、冬季に数羽見られる程度になってしまった。

繁殖も普通に行われ、1991年12月の探鳥会でも御深井池で縞模様のある雛連れが見られた事もあった。

個人的な見解ではあるが、お堀のコイが増えてカイツブリの繁殖期がコイの産卵期と重なり葦原の淵などで、盛んに波立たせ産卵をする。これではカイツブリは落ち着いて子育ては出来ないだろう。

そんな中でハジロカイツブリが1999年11月28日に初めて観察され、その直後の12月の探鳥会でも記録されている。同じく2000年12月にミミカイツブリも観察された。

両種は良く似ているが、真っ直ぐに伸びた嘴の先が黄色く見られたのが決め手になった。

● シギ・チドリの仲間

シギ・チドリの仲間が見られる事は稀だが以下の観察例がある。

イソシギ お堀の水際で数回見られたことがあるが、堀川沿いでは更に見る機会が多いので、立ち寄ったものと思われる。

クサシギ お堀の水際で1998年4月25日に一度だけ観察された。

タシギ お堀の水際で2004年4月11日に一度だけ観察された。

ヤマシギ 春と冬季に稀に観察されるが、大概是飛翔時に見つけて、それと判断出来るだけで、地上での観察例はない。

コチドリ 公園内での記録はないが、周辺の工事現場の更地で見た記録がある。

ケリ 4月頃に鳴きながら上空を通過する姿が見られている。

● ミゾゴイ

現在では城外の「金鯰横丁」に変わってしまったが、かつては小さな丘陵と林があって静かで人気のない場所で、渡りの時期には外せないコースである。

2001年4月22日に丘陵地の芝生の上に一羽の大型の鳥が佇んでいるのを見つけたが、私には初物で、すぐにはミゾゴイだと判らなかつた。

特徴を頭に叩き込み、1kmほど離れた車まで図鑑とカメラを取りに行くため、そっとその場を離れた。

車から図鑑とカメラを取って、心の中で「いてくれよ」と願いながら現地に戻ったが、期待に応じてまだそこにいた。

まずは大切な証拠写真をとる思いカメラを構えた所で、突然上空から2羽のカラスが襲ってきて飛び立ってしまった。残念だったが図鑑で確認をすると、ミゾゴイであった。

● ウミネコ

ユリカモメは11月から4月頃まで、多い時は100羽を越える数で飛来し、市民の与える餌に群がるのが、冬の風物詩にもなっている。

そんな大群に混じって、時折セグロカモメが数羽現れることもあるが、2005年12月3日に始めてウミネコが単独で観察された事もあった。

● アオバズク

1996年10月26日の事であったが、北側公園を歩いていた時に、数羽のヒヨドリが鳴き交わしているのを異常に感じて足を止めた。

いつもに無く声が鋭く騒がしい。

もしかして何かに威嚇をしているのかもと思い、声の辺りを探して見ると、ケヤキの木の横枝にアオバズクが止まっているのを見つけた。

よくある例ではあるが、小鳥が騒いだお陰で猛禽類が見つかる事もあるので気をつけたい。

● ヨタカ

1995年5月9日の事であったが、お堀端にあるクヌギ林で渡り性の鳥を探していた時に、林の上を飛ぶ1羽の鳥、止まった所を双眼鏡で捉えようと思うが、定まる前に飛ばれてしまう。何度か繰り返している内に、尾の裏側に半円形の白斑が確認出来た。

その内に一本の木に落ちてくれたが、何とそれがヨタカであった。

図鑑では確認出来なかったが、ヨタカの尾の裏側にあの様な白斑がある事を始めて知った。

● キレンジャク

毎年春の時期になると、決まってレンジャクポイントに行き楽しんでいたが、いつもヒレンジャクばかりでキレンジャクは憧れの鳥になっていたが、遂に1997年4月13日にこの名城公園で出会う事が出来た。

愛知県体育館の西側にある石垣辺りから「ヒリリリー」と言う声が聞こえて来た。

時期柄レンジャクを期待はしていたので、心ときめかせて声の聞こえた辺りを探してみるとキレンジャク4羽を見つける事が出来た。

● ヒレンジャク

2002年11月23日の事、北側公園のケヤキ林の辺りを歩いていた時に、突然樹上に4羽のヒレンジャクが飛んで来て止まった。

レンジャク類が見られるのは春の時期だけだと思い込んでいたので、11月に見られた事に本当に驚いた。

● サンコウチョウ

2006年9月23日にお堀端のクヌギ林でサンコウチョウを見つけた。

尾は長くは無いが、渡る時期には長い尾は抜け落ちると聞いていたので、オスだと判断したが、口にはトンボを啜っていた。

トンボの羽根をどの様にして剥がすのか興味があって、しばらく双眼鏡の中に入れてみっていたが、首を回して辺りを警戒するばかりで、なかなか処理が進まない。

私も疲れて、一旦双眼鏡を外した隙に飛ばれてしまった。

● マヒワ

マヒワは冬季や渡りの時期に稀に観察される。

1993年4月には最大で30羽以上の群れが観察されたこともあった。

1996年11月16日に、友人と二人で「しばらくマヒワに出会っていないね」と話しながらオランダ風車の見渡せる辺りに辿りついた。

この風車の周りには、季節に応じて種々様々な花が植えられている。

この時期には沢山のコスモスが植えられていたが、この周辺に小鳥が群れているのに気が付いた。スズメでない事は判別出来たので、急いで近付いて見ると、20羽程のマヒワの群れであった。

コスモスはまだ満開の時期であったが、中には種が出来たものもあって餌にしていたのであろう。

● コウライウグイス

1995年9月15日の事、秋の渡り鳥を探してお堀端のクヌギ林まで来た時に、樹上の葉の茂る隙間に、黄色い鳥らしき姿を見つけた。

ずっと以前に、スズメの群れに混じるセキセイインコを見た記憶があり、このセキセイインコか他のカゴ脱けの飼い鳥であろうとタカをくくってしまった。

コウライウグイスは正直勉強不足で、図鑑で名前を知っていた程度で全く頭に浮かばなかった。全体が見えなかったものの、赤い嘴や黒い過眼線は時折、葉の隙間から見る事が出来た。しかし図鑑を持ち合わせておらず、情けないかな自宅に帰って図鑑で調べ、それがコウライウグイスであった事が判った。

● キクイタダキ

1994年11月6日、探鳥会の集合場所に行くと、馴染みの友人が今朝キクイタダキを見たと言う。探鳥会の間中、何とか見つけたいと五感を使って探したが見つからなかった。

それでも諦められずに、探鳥会終了後も友人と公園内を探し歩いた。カラの混群の中にいた事を頼りにマツなどの針葉樹を主に探したが、遂に御深井池の畔のマツの木にその姿を見つけた。シジュウカラやヒガラの混群に入っていたが、当公園の初記録となった。

最後に「名古屋市鳥類調査」に関して少し触れるが、5年置きに実施される調査に「名古屋城一带」の調査担当として1995年から2015年までの5回に亘って携わってきた。渡りの時期には「何が出てても不思議ではない」と言う期待感で数多く観察に通った。

25年の間の大きな変化は何と言っても越冬するカモの数であろう。

城内からはお堀を見下ろす形で、カモのカウントには最適の場所であったので、月1回はカウンターで記録をしていた。

1例ではホシハジロが800羽を越す年もあったが、近年では数十羽に留まっている。様々な環境条件も絡むが、再び大量のカモ類が戻る事を願っている。

あとがき ～名城公園探鳥会が永遠に続くことを願って～

佐藤 文和

名城公園探鳥会がまもなく300回(2018年12月)を迎えるという2018年夏頃のこと「記念誌を作ろう」という機運が出て、現在の案内人を中心に内容の検討など進めてきてこの小誌が出来上がりました。

幸い最初からの記録が残っており、パソコンに強い会員もいることから変遷が分かりやすい形で可視化することができました。至近のパソコンは性能が向上し、50回(1987年)の時に少し分析したのがありますが、折れ線グラフ作成程度がやっとで、もちろんカラー処理も難しい状態でした。

今回のまとめでは、全部の鳥について作表・分析は載せてありません。また、これが最適な分析方法であるとは断定できません。こういった見方、分析が出来るのでは?というご意見をお持ちになった方がお見えになりましたら、データを提供することは出来ますので、是非お申し出いただき、追加の分析をして支部報などで公表していただければありがたいです。(注)

名城公園は戦後に出来た都市公園です。現状を眺めてみると、当初の計画通り、緑の多い都市に潤いをもたらす公園に育っていると思います。野鳥も多く自然に優しいとともに、お花見、ウォーキング・ジョギング、グランドゴルフ、保育園・幼稚園児のお散歩など人にもよく利用されていることから、人にとっても自然に親しめる優しい公園です。

今では名城公園は市中心部にあつて、理想的な公園となっていると思いますが、最近、公園の経済的利用を図ろうとする再開発計画がちらほら聞こえてきます。都市公園である点から多少の経済的活用を考えることは否めませんが、野鳥など動物も含めて今の利用者が締め出されるような大きな環境の改変があつてはならないと思います。

私たちはこれからも探鳥会を継続して、記録を残して時々立ち止まって分析し、貴重な都市中心部の公園が破壊されるようなことが無いよう、注視していきたいと思つています。

(注) データの提供・活用については、目的、分析の活用等について、支部役員会の承認を要します。



300回を迎えて ～案内人からのメッセージ～

秋山 幸之朗

観察記録の解析を担当しました。私が名城公園探鳥会の参加するようになったのは1990年代からで、現在に至るまで観察してきた主な感想としてはカモ類がずいぶん減ったことと、ゴイサギがいなくなった、といったところでした。しかし、今回の解析でそれ以外に全体を俯瞰しないと分りにくい生息状況の変化が明らかとなり大変有意義なものでした。300回の中に大きく変わったところも変わらないところもある名城公園の鳥相ですがこれからどうなっていくかはとても興味深いところです。

大崎 敏広

私の案内人在任中にこのような機会に恵まれ、うれしく思います。探鳥会に参加する前は身近な所でこれだけの種類の鳥が見られるとは思っていませんでした。あれから19年、この記録の後半半分を見てきましたが、その間にも飛来する鳥の種類に変化がありました。それは興味深い事であり、貴重なデータにもなります。これからも参加者の皆さんと鳥を見て、その楽しさを伝え、記録する事が自然保護にもつながっていけばと思います。

右高 幸男

古いフィールドノートの記録を引き出すと、名城公園の探鳥会に初めて参加した記録が(1984年)昭和59年3月4日(第23回)になっている。

当時リーダーの鈴木さん、一色さん、三浦さん、落合さんには親切なご指導を頂いたお陰で益々野鳥の世界に引きずり込まれて行った。

300回を迎えられて、諸先輩や多くの参加者の皆様には感謝しかありません。

ありがとうございました。

編集委員一覧(敬称略)

秋山 幸之朗

大崎 敏広

佐藤 文昶

右高 幸男

田口 奈緒子(DTP編集)

名城公園探鳥会 300 回の記録

発行年月 2020 年（令和 2 年）3 月

発 行 日本野鳥の会愛知県支部



日本野鳥の会
愛知県支部
